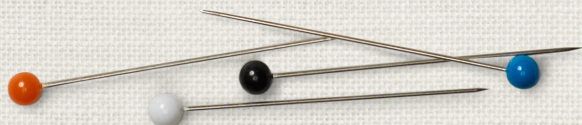




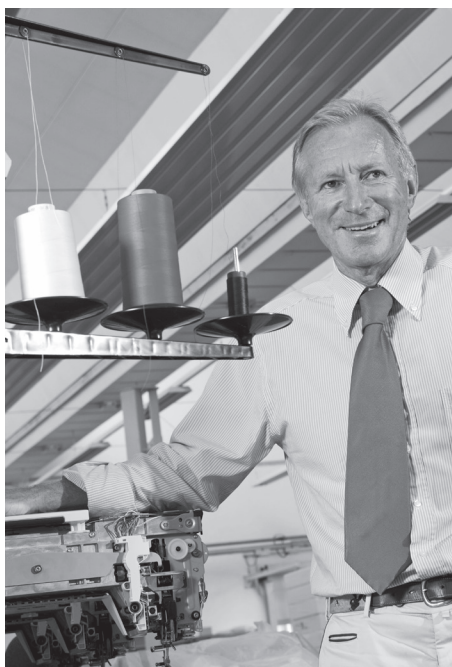
BERNINA 530 | 550 QE



made to create **BERNINA**

ベルニナユーザーの皆様へ

この度はベルニナマシンをお買い上げ戴き誠にありがとうございます。ベルニナマシンは、これから長年に渡ってあなたの信頼にお応えしてゆくことでしょう。100年以上に渡って私の家族はユーザーにご満足戴ける製品を創り続けてきました。私自身、精密な、完成度の高い、将来を見据えたソーイングテクノロジーに基づいて造り出されたスイスのマシンを、行き届いたカスタマーサービスとともにご提供出来ることを誇りに思っております。



この度ベルニナ社が発売したのは超現代的な5シリーズの三機種です。最高度のテクノロジーの要求に応えることはもちろん、私たちはデザインにも追及し、クリエイティブで、高品質を求める、芸術性のあるデザインを敏感に感じ取っていただけるような皆様にご満足戴ける製品に仕上げました。

ベルニナマシンと共に多岐にわたる豊富なアクセサリーを使ってクリエイティブなソーイングをお楽しみ戴けることを願っております。www.bernina.com もご訪問いただき、あなたのソーイングに新しい息吹を吹き込んでください。

最後に、経験豊富なベルニナ正規販売代理店が皆様のアフターサービスをご提供いたしますのでご安心ください。皆様がこの新しいベルニナマシンで数多くのクリエイティブな時間を楽しんでいただけますよう切に願っております。

H.P. Ueltschi ハンス・ペーター・ウルチ
オーナー
ベルニナマシン株式会社
CH-8266 Steckborn, Switzerland
www.bernina.com

安全にご使用いただくために

重要事項

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

ご使用になる前に必ず全ての説明をご一読ください。

ミシンを使わない時は、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

⚠ 危険!

感電の危険を避けるために:

1. プラグをコンセントにつないだままで、ミシンから離れないで下さい。
2. ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
3. LEDライトの放散光による危険: 光学機器などを使って、ライトを直接見ないようにご注意ください。こちらはクラス1MのLED製品です。

⚠ 警告!

火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1. この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。ベルニナ社がおすすめする付属品やアクセサリ以外はご使用にならないで下さい。
2. 子供さんがおもちゃとしてご使用にならないように。小さなお子様の近くでご使用の時は、特別の注意を払って下さい。当製品は、身体的または精神的障害のある方、経験および知識に欠ける方達(子供を含む)が単独でお使いいただける製品ではありません。必ず保護者あるいは責任のある監督及び指導に従ってご使用下さい。小さなお子様がおもちゃとしてご使用にならないよう特別のご注意をお願いいたします。
3. 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい:
 - ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
 - ミシンが正常に作動しないとき。
 - 落としたり、損傷したとき。
 - 水の中に落としたとき。このような場合には、お近くのお買い上げ店にミシンの点検、修理、調整を要請して下さい。

4. ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使用しないで下さい。
5. 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の周りでは、細心の注意を払って下さい。
6. ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
7. ミシンを屋外で使用しないで下さい。
8. 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では使わないで下さい。
9. 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりしないように。そのような行為は針をいため、針折れの原因となります。
10. 曲がった針は使用しないで下さい。
11. 常にベルニナ純正品の正しい針板をご使用ください。間違った針板をお使いになると針折れを発生させます。
12. ミシンを電源から切り離すときは、まず電源スイッチをオフ"0"にしてから電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードを引っ張らないで、プラグを掴んで引き抜いてください。
13. 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。
14. ミシンのハウジングのカバーを外したり、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
15. ミシンは二重絶縁構造を採用して製造されています。(アメリカ合衆国とカナダを除きます)ベルニナ純正部品のみご使用下さい。二重絶縁構造に関する注意事項を守ってください。

二重絶縁構造の製品のサービスについて

二重絶縁構造の製品には、アースを取る方法の代わりに、二種類の絶縁方法が採用されています。二重絶縁構造の製品には、アースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁構造の製品の修理・サービスには極度の注意と知識を要します。資格を有するサービス担当者によるサービスのみお受けください。二重絶縁構造の製品の交換部品は製品に使われて得いるオリジナルの純正部品と同一のもので無ければなりません。

 このシンボルが製品に表示されています。

ご注意!

この説明書に記載されていない間違った使い方から派生するミシンへのダメージや故障にはいかなる賠償及び責任を負うものではありません。

このミシンは家庭用のご使用にのみ供するものです。当製品の電磁気許容量に関しては the European Standard 2004/108/EC に準じるものです。

説明書は大切に保管して下さい。



最新の説明書は www.bernina.com で入手できます。

環境保護について



ベルニナ社は環境保護に準じることを宣言しています。私達は製品の製造に当たっては製品デザインの改良、技術革新などによって製品が環境に与える影響を最小限にする努力を常に行っております。

当製品がご不要になった場合には、お住まいの国の環境基準法に準じた方法で処分していただけますようお願い申し上げます。家庭用ごみとして廃棄しないようご注意ください。ご不明な点があれば、お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談ください。



ミシンを長期間に渡り厳寒の部屋の中に放置していた場合は、お使いになる1時間くらい前に暖かいお部屋に移してから使い始めてください。

アクセサリー	7
準備 ■ ミシンの各部名称 10 ■ ソーイングの準備 12	10
機能の説明 ■ «機能»ボタン 26 ■ 画面の一覧 30 ■ セットアッププログラム 32 ■ チュートリアル 34 ■ ソーイングコンサルタント 35 ■ バランス 36	26
各種のステッチ ■ 実用縫い 37 ■ ボタンホール 51 ■ 飾り縫い 62 ■ キルトステッチ 63 ■ BSR 66 ■ アルファベット 70 ■ コンビモード 71	37
クリーニング	75
トラブルシューティング	76
ステッチパターン	78
索引	86



危険!

特に重要!

ケガの危険あり!

危険!

特に重要!

損傷の危険あり!



ヒント!

* BERNINA 530では標準品に含まれません。

** BERNINA 550 QEでは標準品に含まれません。

用語解説

バランス

布により発生する不規則なステッチの状態

折り目

布を折り返した折り山

BSR

ベルニナステッチレギュレーター。所定のスピードで安定した長さのキルティングステッチを縫います。

clr

動作やデータを取り消す操作

釜の剣先

上糸の輪を«すくい», 下糸と絡ませて一つのステッチを構成する部品

LMS

ボタンホールの長さ測定機能

メモリー

恒久メモリー

サテンステッチ

密度の高いジグザグ縫い

バータック

ボタンホールの環留め

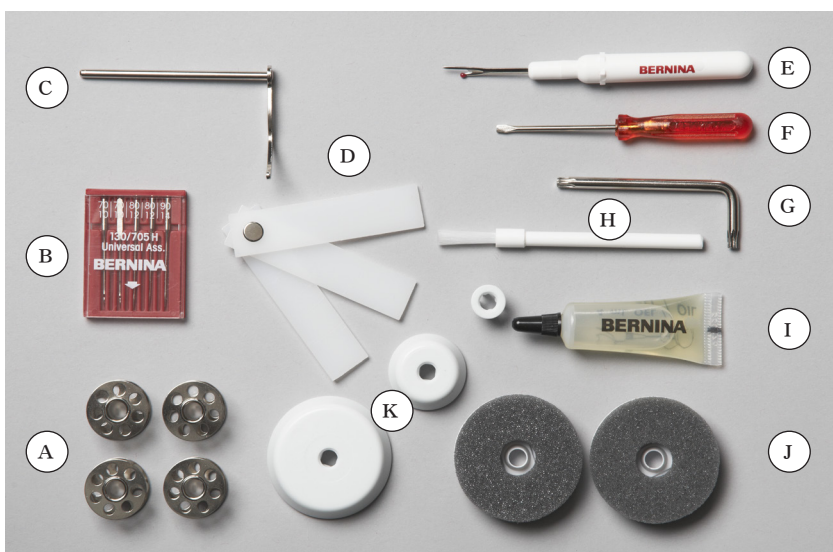
無断転載禁ず

技術的な理由、そして製品改良の為にミシンの機能、部品、アクセサリ等が予告なく変更、改良されることがあります。付属品の仕様は国により異なります。

標準アクセサリ

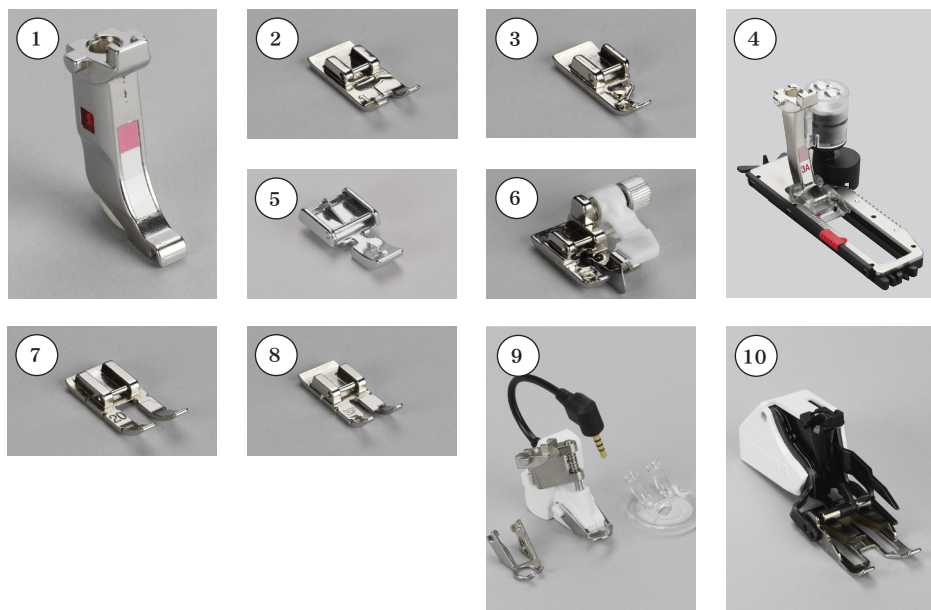


- キャリングバッグ
- アクセサリーボックス
- フットコントローラー
- 電源コード
- ソーイングテーブル
- シームガイド
- フリーハンドシステム(膝押え上げ・ニーリフター)



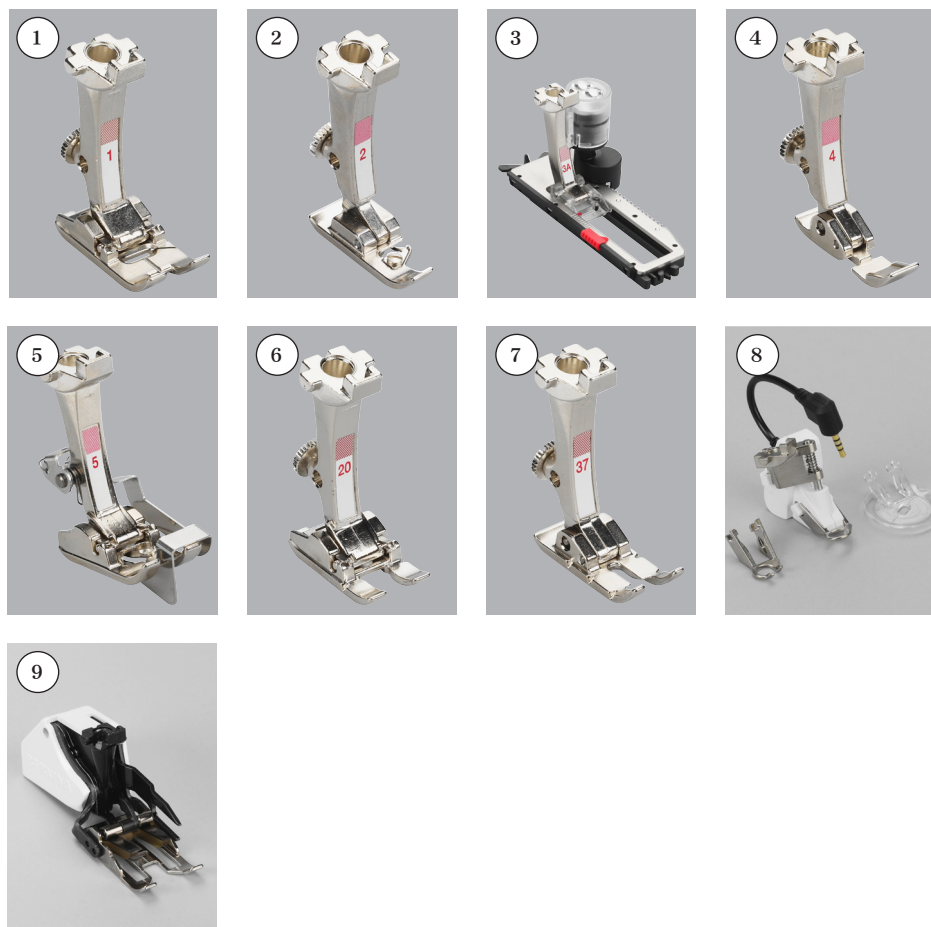
- A ボビン5個(一個はミシンに装着)
- B 標準針セット
- C キルティングガイド
- D 高さ調節板
- E シームリッパー
- F 赤い小型ドライバー
- G 特殊L型レンチ
- H ブラシ
- I オイル
- J 糸こまクッション2種類
- K 糸こまカバー3種類

押えシャンクと各種押え底 (BERNINA 530/550 QE)



- 1 押えシャンク
- 2 No. 1 標準押え底
- 3 No. 2 オーバーロック押え底 **
- 4 No. 3A 布ガイド付自動ボタンホール押え
- 5 No. 4 ファスナー押え底
- 6 No. 5 まつり縫い押え底
- 7 No. 20 オープン刺しゅう押え底 *
- 8 No. 37 パッチワーク押え底 *
- 9 No. 42 BSR押え *
- 10 No. 50 ウォーキング押え *

押え金 (BERNINA 550 QE)



- 1 No. 1 標準押え
- 2 No. 2 オーバーロック押え **
- 3 No. 3A 布ガイド付自動ボタンホール押え
- 4 No. 4 ファスナー押え
- 5 No. 5 まつり縫い押え
- 6 No. 20 オープン刺しゅう押え
- 7 No. 37 パッチワーク押え
- 8 No. 42 BSR押え
- 9 No. 50 ウォーキング押え



www.bernina.com を訪問して
更に豊富なアクセサリーを見つけ
て下さい。

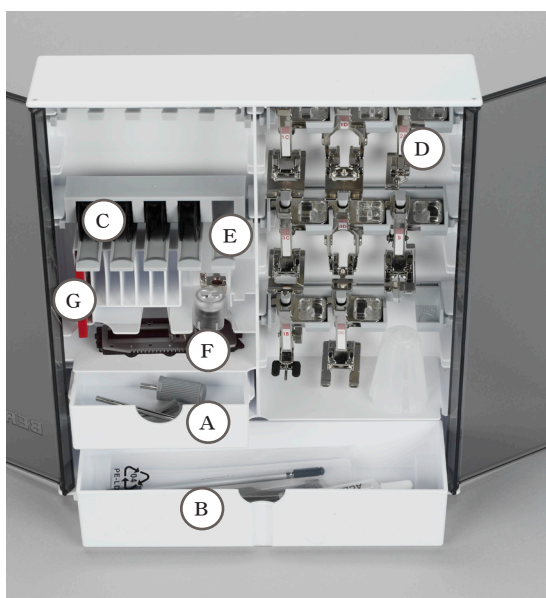
押え金のタイプ及び種類は国により仕様が異なります。(押えシャンク式、またはベルニナ式)

アクセサリボックス



アクセサリを収納する

- ボックスの後ろ側にある脚部分を、かちっという音がして固定するまで引き出して下さい。



収納例

アクセサリボックスには、小型引き出しA、大型引き出しB、ボビンホルダーCおよび押え金ホルダーDが標準装備されています。

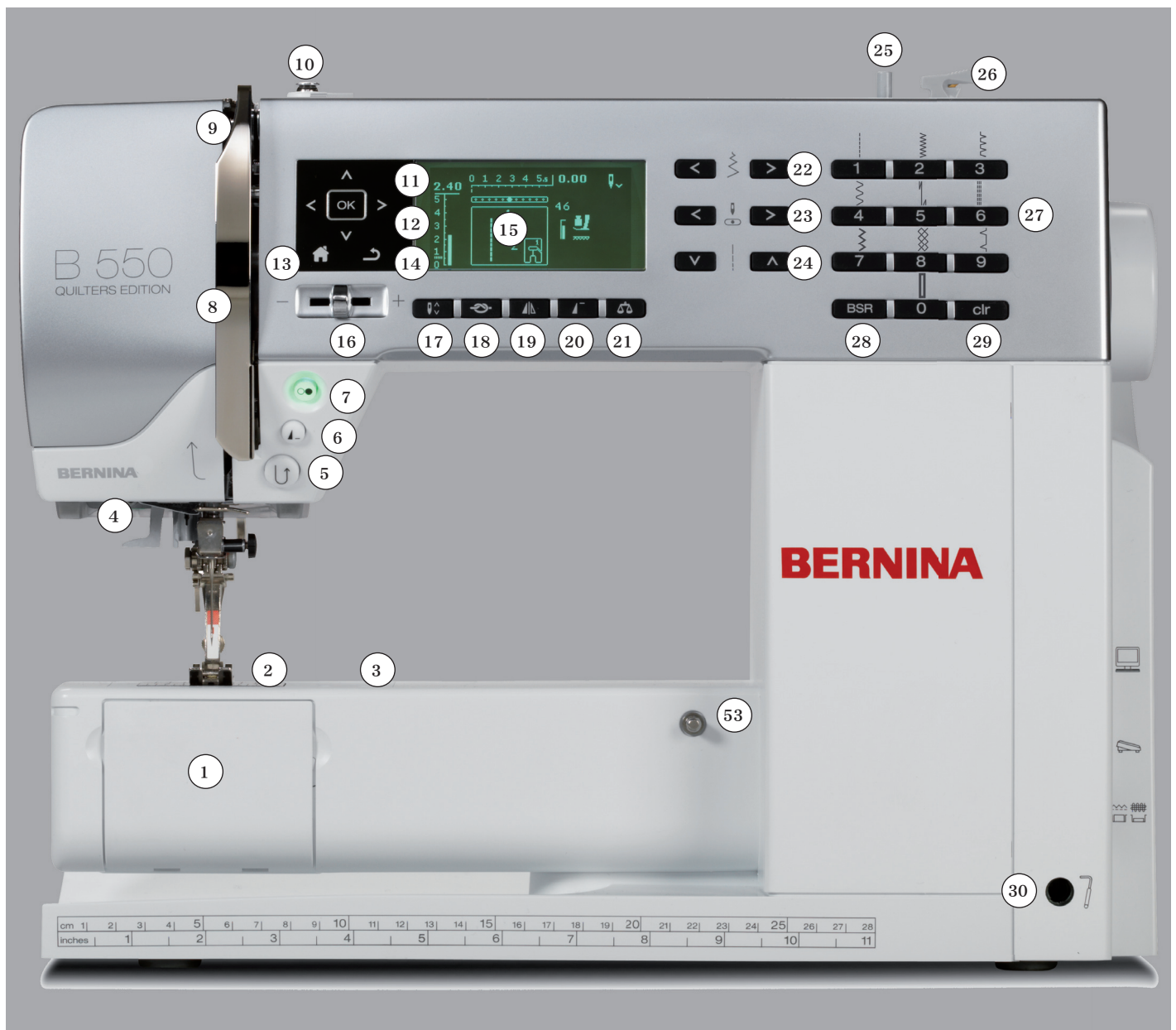
- ボビンを取り外すには、ホルダーのE部分を軽く下に押します。
- 布ガイド付自動ボタンホール押え3Aは、左側のFに収納できます。
- 針ケースは、Gの縦型収納スロットに収納します。



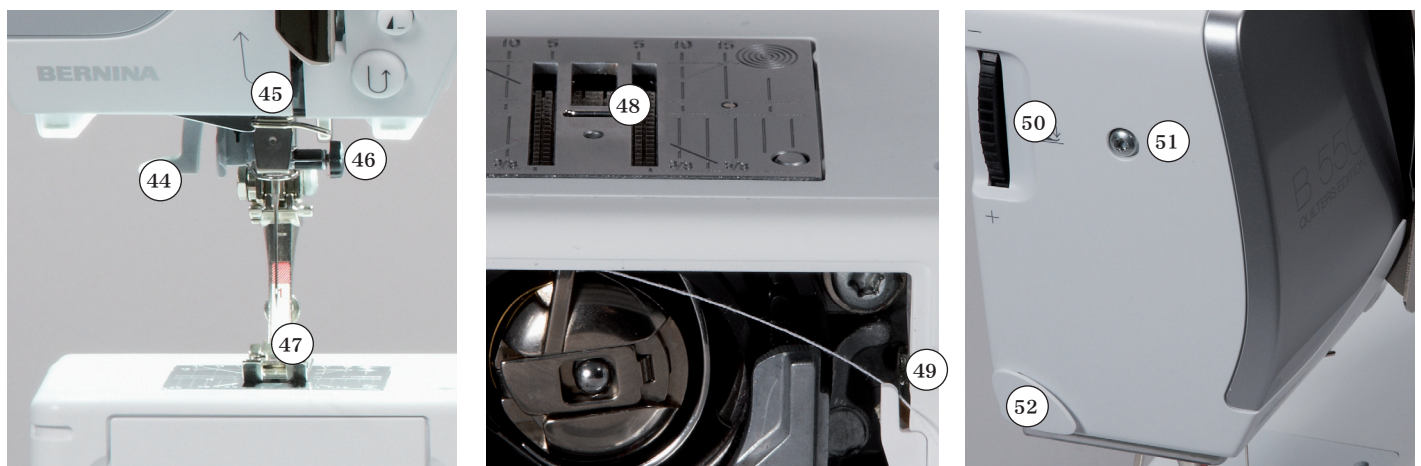
無断転載禁ず

技術的な理由、そして製品改良の為にミシンの機能、部品、アクセサリ等が予告なく変更、改良されることがあります。付属品の仕様は国により異なります。

前面



細部拡大





- 1 釜カバー
- 2 針板
- 3 オプションアクセサリ取付け穴
- 4 LEDソーイングライト
- 5 «返し縫い»ボタン
- 6 «一模様縫い/模様繰返し»ボタン
- 7 «スタート/ストップ»ボタン
- 8 天秤安全カバー
- 9 天秤
- 10 下糸巻用テンション付糸案内
- 11 «ナビ»ボタン左/右/下/上
- 12 «OK»ボタン
- 13 «ホーム»ボタン
- 14 «戻る»ボタン
- 15 画面
- 16 スピードコントロール
- 17 «針停止»ボタン上/下
- 18 «留め縫い»ボタン
- 19 «模様反転»ボタン
- 20 «模様頭出し»ボタン
- 21 «バランス»ボタン
- 22 «振り幅»ボタン
- 23 «針基線»ボタン
- 24 «送り長さ»ボタン
- 25 下糸巻き装置
- 26 下糸巻き糸切り
- 27 «ダイレクト選択»ボタン
- 28 «BSR»ボタン
- 29 «clr»ボタン
- 30 ニーリフター接続穴
- 31 上糸ダイヤルテンション
- 32 後部上糸案内
- 33 キャリングハンドル
- 34 垂直糸こま立て(折りたたみ式)
- 35 水平糸こま立て
- 36 アイレット糸案内
- 37 はずみ車
- 38 PC接続用コネクタ(ソフトのアップデート用)
- 39 フットコントローラー用ソケット
- 40 送り歯ドロップボタン
- 41 電源スイッチ オン «I»/オフ «0»
- 42 電源コード用ソケット
- 43 換気口
- 44 糸通し機
- 45 糸ガイド
- 46 針止めネジ
- 47 押え金
- 48 送り歯
- 49 下糸切り
- 50 押え圧調節ダイヤル
- 51 面板固定ネジ
- 52 糸切り装置
- 53 ソーイングテーブル固定用突起
- 54 縫い縫いアタッチメント取付け穴
- 55 押え上げ
- 56 BSR接続ソケット

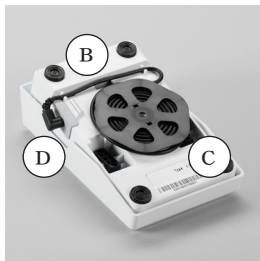


フットコントローラー



縫い始める前に

- コードを取り出す。
- プラグをAのソケットに接続します。
- コードを必要な長さだけ引き出し、BまたはCに固定します。



スピードコントロール

フットコントローラーを踏み込む加減でスピードをコントロールします。

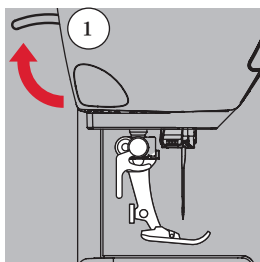
針を上下する

- フットコントローラーのかかと部分をキックすると針を上げ下げすることが出来ます。

ソーイングが終わったら

- コードを時計方向に巻いて収納する。
- プラグをDの収納用穴に接続しておく。

ソーイングテーブル



- はずみ車を手前に回します (11ページ参照)
- ▶ 針が上がります。
- 押え上げ①で押え金を上げます。
- ▶ 押え金が上がりました。



ソーイングテーブルはソーイングスペースを広げます。

ソーイングテーブルを取り付ける

- 針と押え金を上げます。
- フリーアーム部に合わせてカチッと接続するまでスライドさせます。

ソーイングテーブルを取り外す

- 針と押え金を上げます。
- ボタンAを押し下げたままにします。
- ソーイングテーブルを左方向へスライドして取り外します。



シームガイド

- シームガイドの脱着ボタンを押して、テーブルの正面から軽く押し付けるようにして取付けます。
- テーブルの端から端まで移動できます。

押え上げ (FHS:フリーハンドシステム)



FHSフリーハンドシステムは押えを上げ、同時に送り歯を下げます。

レバーを取り付ける

- 取付け用穴に差し込みます。

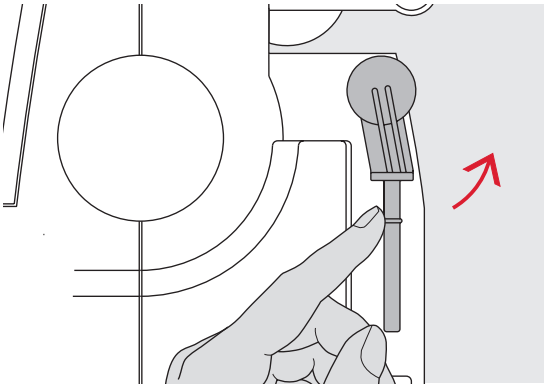
押え金を膝の操作で上げたり、下げたりする

- レバーを膝で右方向に押しやります。
座った状態でレバーを膝で操作します。
- ▶ 押え金を上げ、同時に送り歯を下げます。また、ダイヤルテンションを開放します。
送り歯はソーイングを始めると自動的に瞬時に上がり縫い始められます。



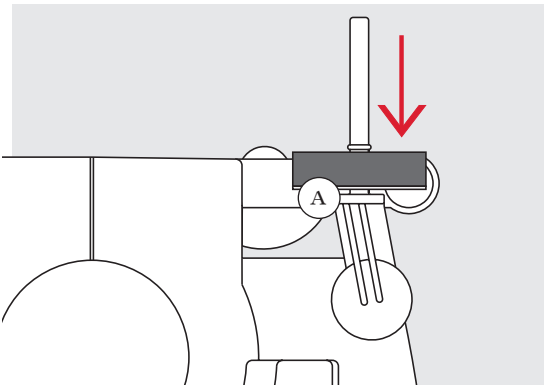
レバーの角度は代理店に依頼すれば調整できます。

垂直糸こま立て(折りたたみ式)



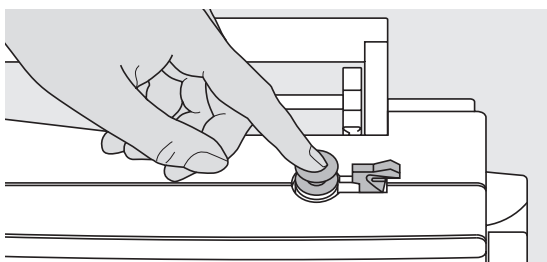
折りたたみ式の垂直糸立て棒がはずみ車の後方に装置されています。
二本針ソーイングをする時などには必須の装置です。また縫いながら下糸巻きをするのにも便利です。

- 糸立て棒を手前に向けて引き起こします。

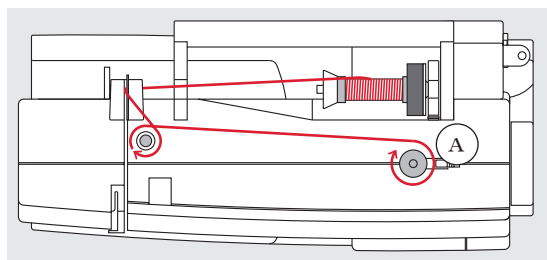


- 糸こまクッションを使うと糸こまが安定します。

下糸を巻く



- 電源スイッチをオン「I」にします。
- 空のボビンを糸巻き軸に装着します。

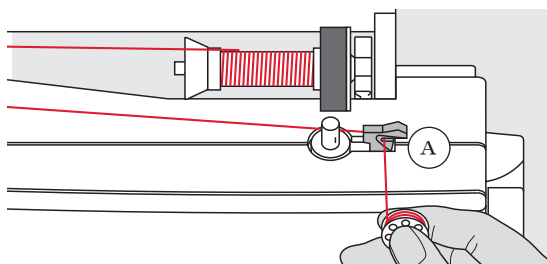


- まず糸こまクッションを取り付けます。
- 糸こまを装着します。
- 適当なサイズの糸こまカバーを取り付けます。
- 上糸を後方糸ガイドを通した後、次にミシン上の矢印の方向に従って下糸巻きガイドに掛けます。
- 空のボビンに糸を2〜3回巻きつけます。
- 余分な糸は糸巻き用の糸切りAで切り取ります

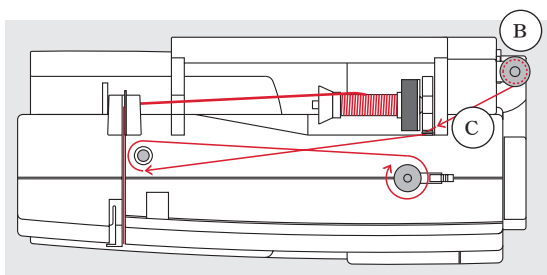


適切なサイズの糸こまカバー

糸こまのサイズに合った糸こまカバーで糸こまと糸こまカバーの間に隙間の無いように糸こまをセットします。

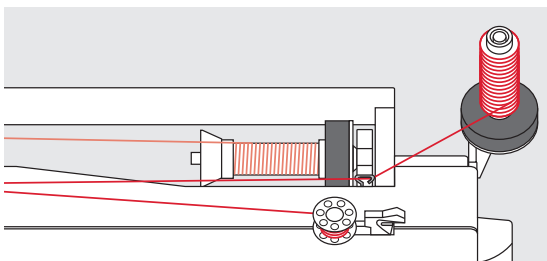


- 糸巻きスイッチA をボビンに対して押し込みます。
- ▶ 糸巻きが始まります。
- ▶ ボビンが一杯になると自動的に止まります。
- ボビンを取り外し、
- ボビンから出ている糸を糸巻き用糸カッター A で切り取ります。



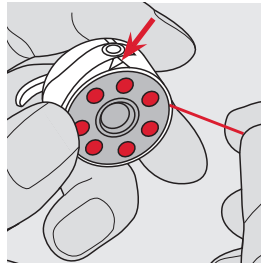
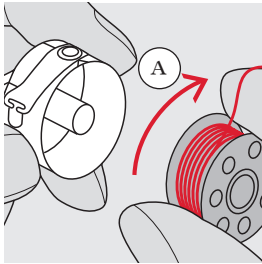
ソーイング中の下糸巻き

- 垂直糸立て棒にクッション付き糸こま土台Bを取り付けます。
- 垂直糸立て棒に糸こまを取り付けます。
- 矢印に従って糸案内Cに糸を掛け、
- 糸巻き用糸案内に糸を掛けます。

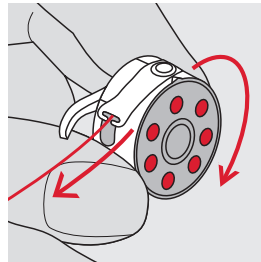
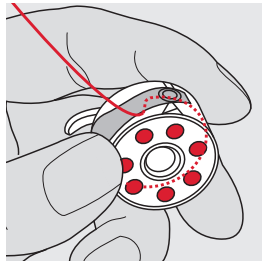


先に説明したとおり進めます。

ボビンをセットする/下糸を掛ける

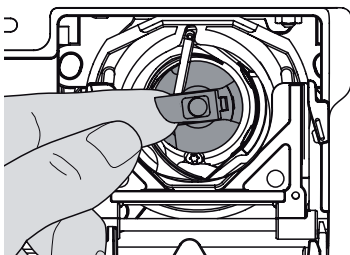


- 糸が時計方向に向く様にボビンをセットします。A
- 糸をボビンケースの溝を通して逆方向に引きます。



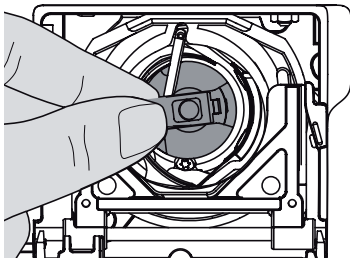
- テンションスプリングの下に糸をもぐらせて引きます。
- テンションスプリングの端のT字型の溝に糸を通します。
- 糸を引きます。
- ▶ ボビンが時計方向に回るのを確かめます。

ボビンケースを取り外すには



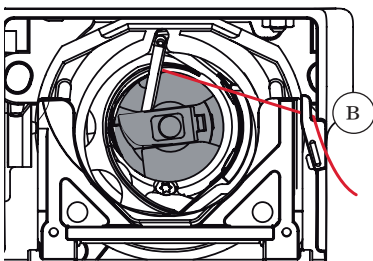
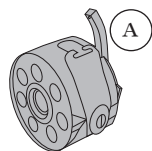
ボビンケースを取り出すには

- 針を上げます。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 釜カバーを開けます。
- ボビンケースの爪の部分で左手で起こしてつまみ、
- 取り出します。



ボビンケースを挿入します。

- 爪の部分で左手でつまみます。
- ボビンケースの角 A は上を向いています。
- カチッと音がするまでしっかりと差し込みます。



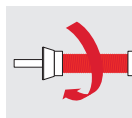
糸カッター

- 糸を引いて糸切りB で切ります。
- 釜カバーを閉じます。

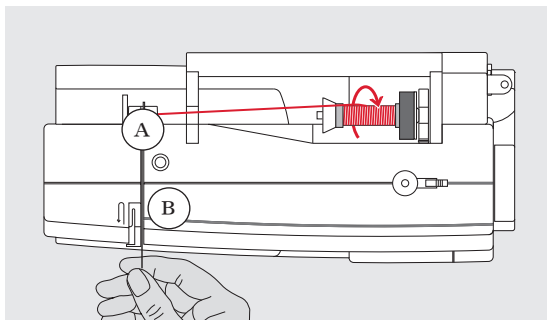


下糸は最適な長さにカットされ、を引き上げる必要はありません。そのまま縫い始めてください。

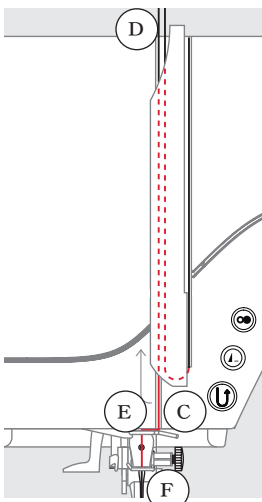
上糸を掛けます



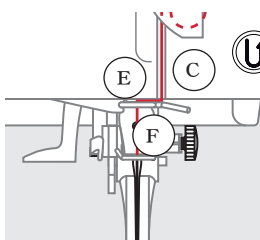
- 針と押え金を上げます。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 糸立て棒にクッション付の糸こま土台を取り付けます。
- 糸が時計方向に出てくるように糸こまをセットします。
- 適当なサイズの糸こまカバーを取り付けます。



- ミシン上部の糸案内 Aに糸を通します。
- 次に上糸テンションダイヤル Bに通して、



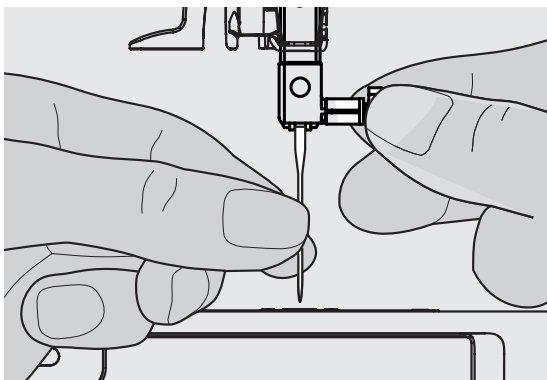
- 天秤カバーの右側に沿って Cで上に回し、
- カバーDの左側に沿って糸を持ち上げ 天秤に糸を通して、
- 最後に E と Fのそれぞれの糸掛けに通します。
- 押えを下げるか、取り外します(18ページ参照)。



適切な糸こまカバー

糸こまのサイズに合った糸こまカバーを選びます。糸こまと糸こまカバーの間には隙間が無いようにセットします。

針の交換方法



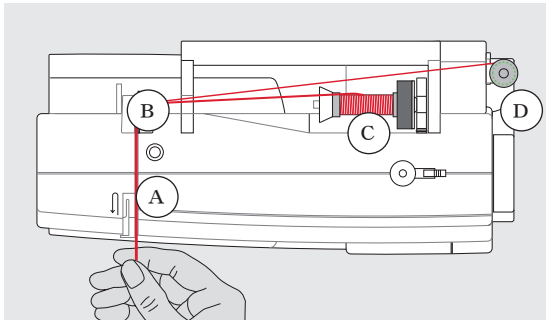
針を交換する

- 針を上げます。
- 押えを下げるか、取り外します(12ページ 参照)
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 針止めネジを緩めます。
- 針を下に引いて抜き取ります。

新しい針を取り付けます

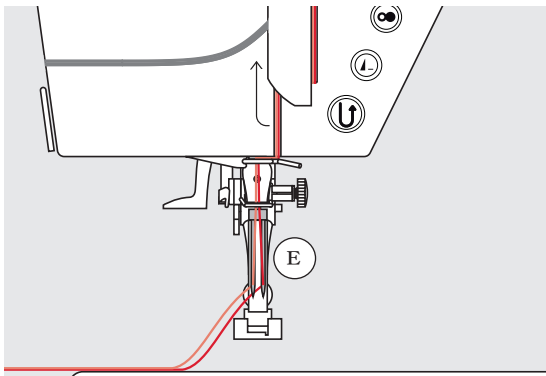
- 針の平らな面を後ろに向けます。
- 針が当たって止まるまで上に差し込みます。
- 針止めネジをしっかり締め付けます。

二本針の糸通し



最初の糸を掛けます。

- 電源スイッチをオフ «0»にします。
- 針と押え金を上げます。
- 二本針を取り付けます。
- 糸立て棒にクッション付の糸こま土台を取り付けます。
- 糸こま C を糸立て棒にセットします。
- 適切なサイズの糸こまディスクを取り付けます。
- 後方糸案内 B に糸を掛けます。
- 糸をダイヤルテンションのディスク A の右側に通します。
- 糸を通常の糸掛けの様にガイドし、
- 右側の針に手で糸を通します。



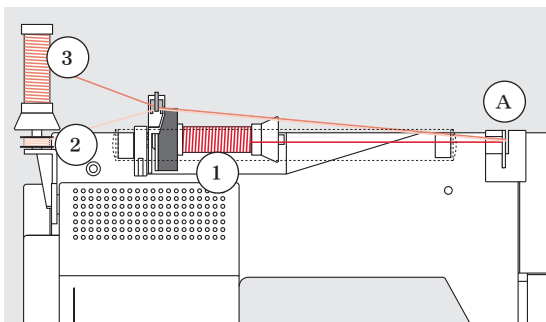
二本目の針に糸を通します。

- 垂直糸立て棒にクッション付糸こま土台を取り付けます。
 - 二つ目の糸こま D を垂直糸立て棒に取り付けます。
 - ミシン後側の糸案内 B に糸をかけます。
 - 糸をダイヤルテンションのディスク A の左側に通します。
 - 通常の方法で針元まで糸を掛け、
 - 左側の針に糸を通します。
- 二本の糸 E を絡ませないように。



垂直糸立て棒を使うときは必ずクッション付き糸こま土台を使います。

三本針に糸を掛けるには



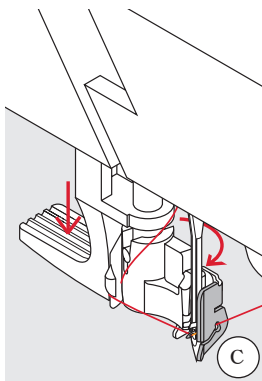
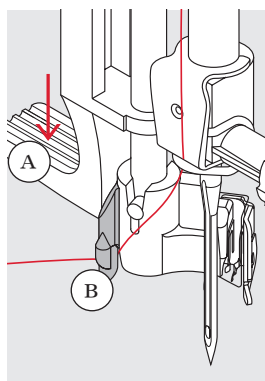
二つの糸こまと糸を一杯巻いたボビンを準備します。

- 三本針を取り付けます。
- 糸こま 1 を水平糸立て棒にセットします。
- 二番目の糸こま 3 とボビン 2 を垂直糸立て棒に間に糸こまディスクを挟んで同じ方向から糸が出るようにセットします。
- 糸掛けを通常通りにし、
- 二本の糸を 左側のテンションディスク A に通し、一本の糸を右側のテンションディスクに通し、
- 針まで通常通りに糸を掛け、
- そして全ての針に糸を通します。



補助糸ガイド(オプション)を使えば、糸の送りがよくなり、糸の流れがスムーズになります。

針に糸を通す



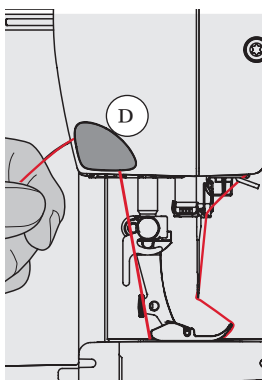
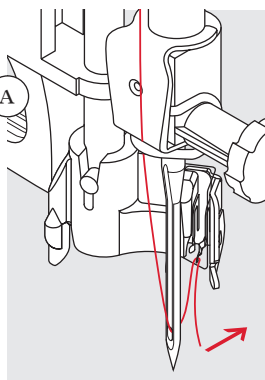
フットコントローラーを軽く一回踏み込んで（一針空縫いして）針を上げます。

- 針を上げます。
- 押え金を下げます。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 糸を矢印のように前方から後方へ。
- 糸通しレバー A を押し下げたままにします。
- フック B に糸を右から左へと回すように掛け右方向に引っ張りながら針の前に引きます。

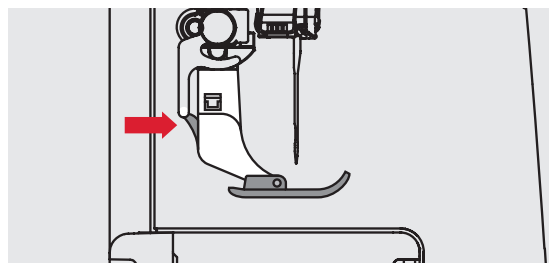
- 糸を前方からガイドC に押し付けるようにするとフックに引っ掛かります。

- レバー A を放します。
- ▶ 糸掛けが完了しました。
- 糸を後ろへ引き、

- 糸を押えの下に回し、前から後ろへ引き、ミシンの側面にある糸切り D で切ります。糸切りに引っ掛けた糸は縫い始めると自動的に外れます。

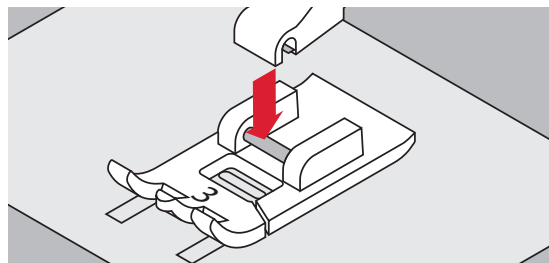


押え底の交換方法



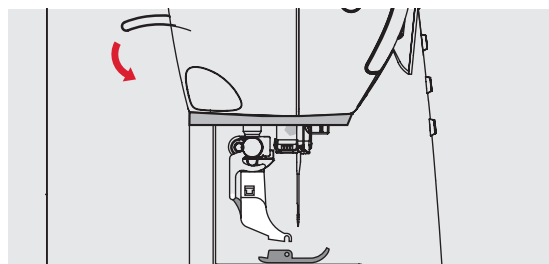
押え底を取り外すには

- 針と押えを上げます。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 押えシャンクの後ろ側のボタンを押します。
- ▶ 押え底が外れました。



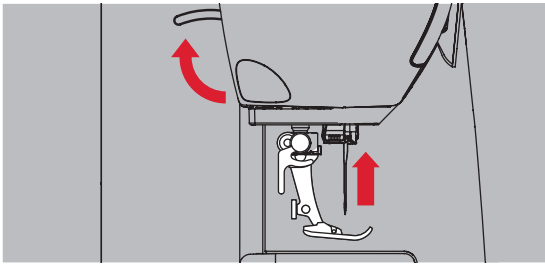
押え底の軸を押えシャンクの溝に合わせて置きます。

- 押え底を押えシャンクの下に置きます。
- 押え底に付いた軸を押えシャンクの



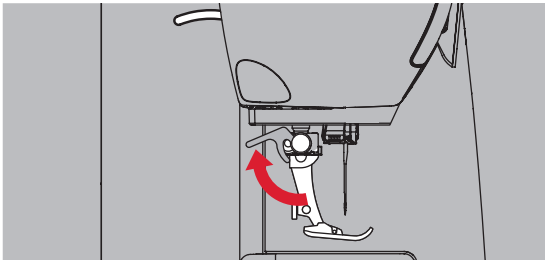
- 押え上げレバーを下げます。
- ▶ 押え底が押えシャンクに接続されます。

押え金を交換する

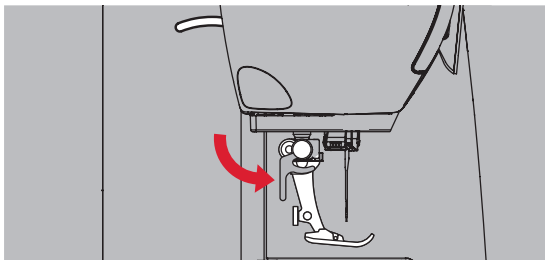


押え金を取り外します。

- 針と押え金を上げます。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。



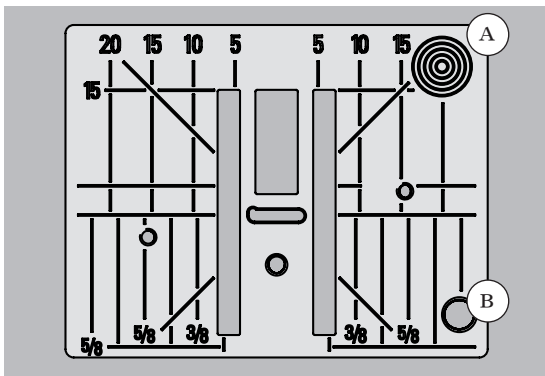
- 押え止めレバーを上げます。
- 押え金を取り外す。



押え金を取り付ける

- 押え金を押え軸の円錐形に合わせて差し込む。
- 押え止めレバーを押し下げて押え金を固定する。

針板



針板上のマーキング

- － 針板の表面にはミリ(mm)とインチ表示で布ガイド用の線が水平、垂直、斜めに刻印されています。
- － 刻印されたラインは布地のガイドとして、またトップステッチに便利です。
- － 水平の目盛り線はコーナーの仕上げやボタンホールに便利です。
- － 斜線はキルティングに便利です。
- － 針が刺さる位置は「0」(針基線中心で)
- － 垂直の目盛り線は針位置がセンターにある場合の針からの距離です。
- － 目盛りは針の中央から左右対称に刻印されています。

針板を取り外す

- «送り歯ドロップ»ボタン(11ページ参照)を押し込む。
- ▶ 送り歯が下がります。
- 電源スイッチをオフ「0」にします。
- 押え金と針を取り外します。
- 針板の右側後方の角 A を指で押し付け針板を浮かび上がらせます。
- 針板を取り外します。

針板を取り付ける

- 針板をベッド上の所定の位置 B に合わせます。
- 針板の右側をベッドに当てて左側を押し下げて取り付けます。
- «送り歯ドロップ»ボタンを再度押し込みます。
- ▶ 送り歯は縫い始めると自動的に上がってきます。

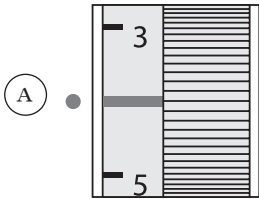
糸調子

糸調子は、工場出荷時の初期設定で最適の状態に調節されています。上糸および下糸テンションの初期設定に使われた糸は、メトロシーンのセラロン100/2（スイス、メトラー社）です。

他のソーイング糸または刺しゅう糸を使用する場合には、最適なテンションに合わせる必要があるかもしれません。こんな時は、布地およびステッチに合わせて、糸調子を調整する必要があります。

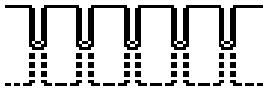
例えば:

	テンション	針
メタリック糸	約3	90
モノフィラメント透明糸	約 2-4	80



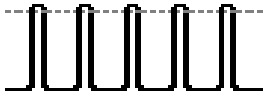
基本セッティング

- 基本はダイヤルテンションの上に赤く表示された位置 Aが標準です。
- 普通の布地では、糸調子の調整は必要ありません。
- 特殊な布地などでは、布に合わせて、糸調子を調整することが必要です。



完璧な状態のステッチテンション

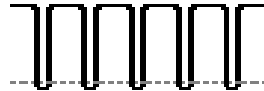
上糸と下糸が、布の内部で釣り合っています。



上糸調子が強すぎる。

下糸が、布の表面に引き出されてしまっています。

- 上糸の調子を弱めるには、糸調子の調整用ダイヤルを3から1までの間で下げます。

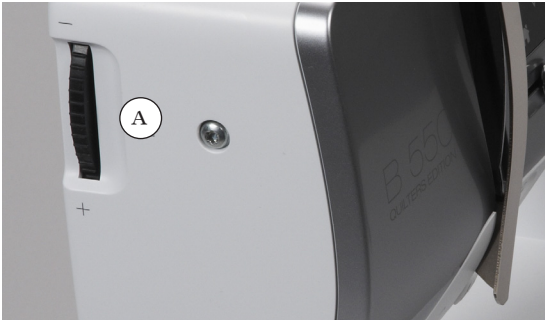


上糸調子が緩すぎる。

上糸が、布の裏面に引き込まれてしまっています。

- 上糸の調子を強めるには、糸調子の調整用ダイヤルを5から10までの間で上げます。

押え圧の調節

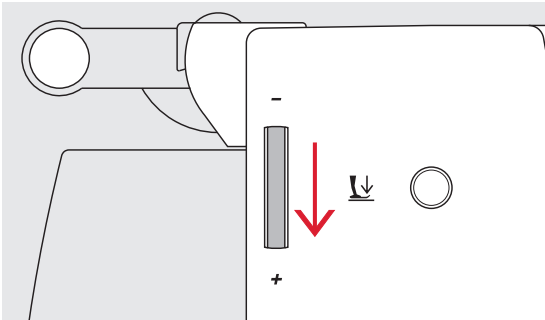


ミシンの左側面の調節用ダイヤル A で押え圧を調節します。

押え圧

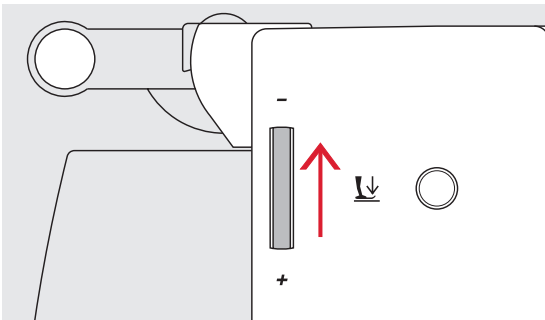
基本セッティング = 46

- ▶ 基本セッティングの数値は常に画面上に表示されています。
- 標準的な布地に対応します。



押え圧を強くするには

- デニムのような硬い布地などで布地の送りを良くします。
- 布送りをスムーズにします。



押え圧を弱くするには

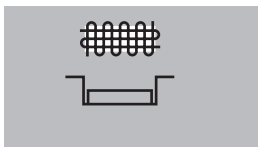
- ジャージーや目の粗いニット地などで。
- 布地が伸びるのを防ぎます。
- 布地が正確に送られるように押え圧を調節します。

送り歯

送り歯を下げる／縫い始める



«送り歯ドロップ»ボタン A がミシンの側面カバーと同じ高さにある時。
▶ 送り歯は縫い始める状態にあります。

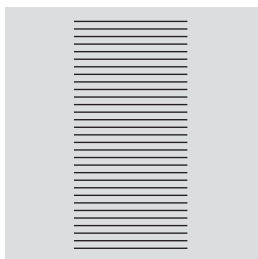


«送り歯ドロップ»ボタン A が押しこまれている状態。
▶ 送り歯が下がっています。
フリーモーションソーイングの状態です。(繕い縫い、刺しゅう、キルティング等)

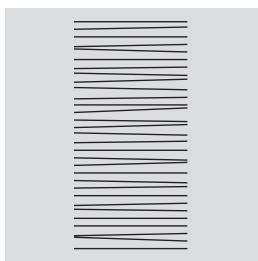
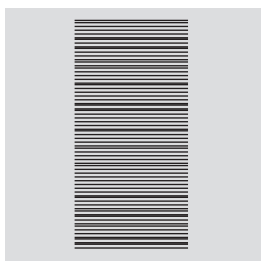
送り歯と布送り

送り歯は、一針ごとにワンステップ進みます。このワンステップの長さは、送り長さで指定した値です。

送り長さを非常に短く設定すると、送り歯の進みも小さくなります。そのため、ボタンホールステッチおよびサテンステッチ、また飾り縫い等では、フルスピードで縫っても、布の送りは非常にゆっくりしたものとなります。



布は均等に送るようにします。



ご注意!

布を押し込んだり、引いたりすると、針折れを発生させたり、針板に傷をつけたりします。

布を押ししたり引いたり、押さえたりすると、針目が乱れてしまいます。

糸と針に関する重要事項

糸

糸は、用途にしたがって選びます。きれいな縫いあがりを得るために、糸を布地の種類に合わせて選ぶことが大切です。高品質の糸を使われることをお勧めします。

コットン糸

- － コットン糸は天然の繊維を使った糸で、コットン地を縫うには最適な糸です。
- － シルケット加工されているコットン糸は、光沢があり、選択しても変わりません。

ポリエステル糸

- － ポリエステル糸は大変丈夫で、対退色性に優れています。
- － フレキシブルで用途が広く特に強度や伸縮を要求されるようなソーイングに最適です。

レーヨン糸

- － レーヨン糸は天然繊維を使って作られており、大変光沢の良い糸です。
- － レーヨン糸は飾り縫いに適しており美しい仕上がりを約束します。

針と糸と布地

ご注意!

針の状態を常にチェックしましょう!

新しいソーイングプロジェクトを始めるときはできるだけ、新しい針に交換するようにしましょう。傷んだ針を使うと、作品を台無しにするだけでなく、ミシンを壊す結果にもつながります。

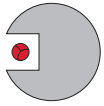
針と糸の選択には特に注意が必要です。

正しい針のサイズは、糸と布地に合わせて選びます。布地の厚さやタイプにより、糸を選び、その糸に合った針のサイズとタイプを選びます。

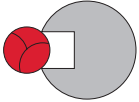
針、糸



正しい針と糸の組み合わせ
縫うときは、糸が針の前方にある溝に滑らかに収まらなければなりません。



細い糸に太すぎる針の組み合わせ
糸が針の溝の中で不安定な動きをしてステッチを乱す原因になります。目飛びや糸切れ等の原因になります。



太い糸に細すぎる針の組み合わせ
糸が針の溝から飛び出して、針の側面と擦れたり、布にフラグging（上下に動く）現象を起こします。糸切れや目飛びの原因になります。



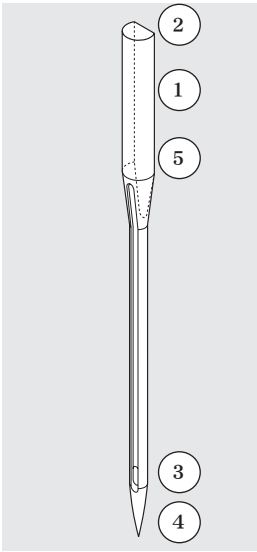
ガイドライン

布地と糸と針のサイズの相関関係

針サイズ

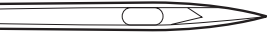
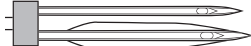
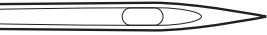
薄地:	
細手の糸（しつけ糸、刺しゅう糸）	70-75
中厚地:	
ミシン糸	80-90
厚地:	
ソーイング糸（キルティング用糸、トップステッチ用糸）	100, 110, 120

130/705 H-S/70



- 1 130 針シャンクの長さ
- 2 705 針シャンクが平らである
- 3 H 針スカーフ（くびれ形状）
- 4 S 針先の形状（この例では、ミディアムボールポイント）
- 5 70 サイズ（針シャンクの直径）

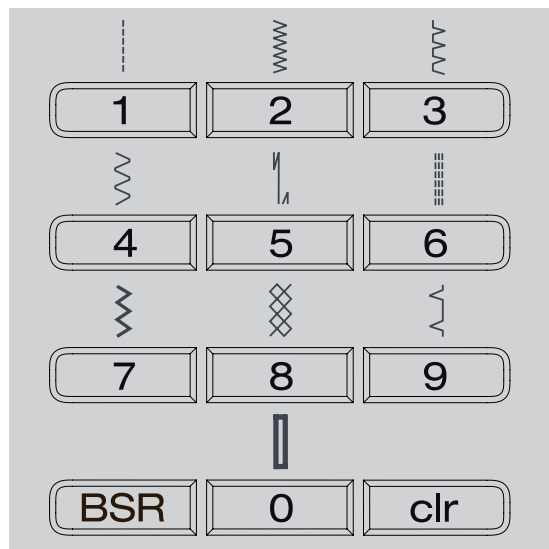
針の一覧表

標準針 130/705 H/60-100  標準の針先形状で少し丸みを帯びている ほとんどの天然および合成繊維（織地およびニット）に。	メタフィル針 130/705 H-MET/75-80 または H-SUK/90-100  大きな針穴 メタリック糸用
ジャージーおよびストレッチ針 130/705 H-S, H-SES, H-SUK/70-90  ボールポイント ジャージー、ニット、伸縮地	コルドネット(トップステッチ)針 130/705 H-N/80-100  長めの針穴、小さなボールポイント 厚手の布地のトップステッチ用
レザー針 130/705 H-LL, H-LR/90-100  カッティングポイント すべてのレザー、合成皮革、ビニール地シート類	ウイング針(ヘムステッチ針) 130/705 HO/100-120  羽(ウイング)付きの幅広い針 ヘムステッチ用
ジーンズ針 130/705 H-J/80-110  非常に細く鋭い針先 ジーンズ地、キャンバス地、オーバーオール等の厚手の布地	ダブルウイング針 130/705 H-ZWI-HO/100  ヘムステッチ刺しゅうで特殊な効果を創り出します。
マイクロテックス針 130/705 H-M/60-90  特別に細く鋭い針先 マイクロファイバー地、シルク	二本針 130/705 H-ZWI/70-100  針の間隔: 1.0/1.6/2.0/2.5/3.0/4.0mm 伸縮地で縁飾りステッチ、ピンタック、飾り縫いに。
キルティング用針 130/705 H-Q/75-90  細く鋭い針先 直線縫いおよびトップステッチに	三本針 130/705 H-DRI/80  針の間隔: 3.0mm 伸縮地で縁飾りステッチ、ピンタック、飾り縫いに
刺しゅう針 H-SUK/70-90  大きな針穴と多少ボールポイントの針先 あらゆる天然繊維や化学繊維での刺しゅうに。	

«機能»ボタンの一覧



ステッチの選択パネル

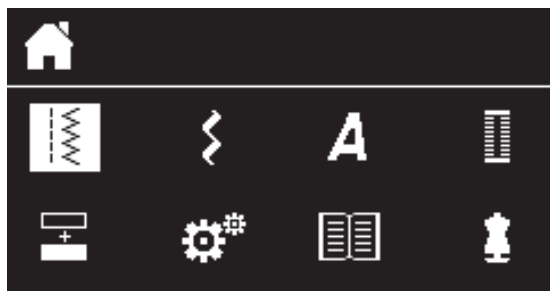


«ダイレクト選択»ボタン

- «ダイレクト選択»ボタンで縫いたいステッチを選びます。
- ▶ ステッチ模様、ステッチ番号、送り長さ、振振幅等のすべての情報が画面に表示されています。

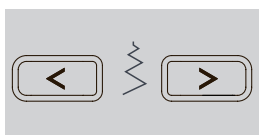
«ダイレクト選択»ボタン0を押すとステッチNo.51（標準ボタンホール）を選べます。

ステッチカテゴリー



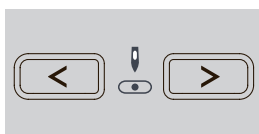
- «ホーム»ボタンを押します。
- «ナビ»ボタン(29ページ参照)を使ってメインメニューで縫いたいステッチカテゴリーを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。

個別に調節をする



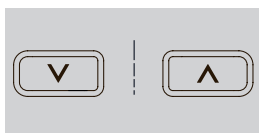
振り幅を変えてみる

- 左向きのボタンを押します。
- ▶ 振り幅が狭くなります。
- 右向きのボタンを押します。
- ▶ 振り幅が広がります。
- ボタンを押したままにします。
- ▶ 連続して変更できます。



針基線を変えてみる

- 左向きのボタンを押します。
- ▶ 針基線が左に移動します。
- 右向きのボタンを押します。
- ▶ 針基線が右に移動します。
- ボタンを押したままにします。
- ▶ 連続して変更できます。



送り長さを変えてみる

- 下向きボタンを押します。
- ▶ 送り長さが小さくなります。
- 上向きボタンを押します。
- ▶ 送り長さが大きくなります。
- ボタンを押したままにします。
- ▶ 連続して変更できます。

《機能》ボタン



《機能》ボタンの一覧



《返し縫い》ボタン

留め縫い:

- ボタンを押します。
 - ボタンを押している間ミシンは後進縫いします
- 適用:
- ボタンホールの長さを記憶させる。
 - つくろい縫いをプログラムするのに使用します。
 - 直線留め縫いNo.5を縫うときに返し縫いのスイッチとして。
 - 縫い始めと縫い終わりで手動での留め縫いに使用します。
 - キルト用留め縫いステッチNo. 1324で使います。

連続返し縫い:

- シグナル音が鳴るまで押し続けます。
- ▶ 画面上にシンボルが表示されます。
- ▶ 連続して後進します。
- 連続返し縫いを終わらせるには、同じようにシグナル音が聞こえるまで返し縫いボタンを押し続けます。
- ▶ シンボルが画面から消えます。



《一模様縫い機能/模様繰り返し機能》ボタン

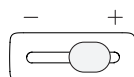
- ソーイング中にボタンを押します。
- ▶ ミシンは現在縫っているステッチ、またはコンビモードで組合わせた(メモリー中の)コンビネーションを縫い終わったところで、自動的に止まります。
- ボタン 1-9x を縫う前に押します。
- ▶ 繰り返す回数と一緒に一模様縫いシンボルが表示されます。

ステッチ、またはコンビモードで組合わせた(メモリー中の)コンビネーションを設定した回数を縫って自動的に止まります。



《スタート/ストップ》ボタン

- フットコントローラーを 接続していても、していなくても ミシンをスタート、ストップすることができます。
- BSR押えが接続されていて起動している時、BSR機能をスタート、ストップさせることができます。



スライド式スピードコントロール

- スライドつまみを動かすことで、ミシンのモータースピードを自由にコントロールできます。
- 下糸の巻取りだけをしているときには、下糸巻取装置のスピードが調整されます。



《ホーム》ボタン

- ボタンを押します。
- ▶ メインメニュー画面を開きます。



《戻る》ボタン

- 前のステップに戻ります。
- 例外:
- 模様縫い
 - アルファベット



«ナビ»ボタン 左/右/下/上

いろんなメニュー画面で操作します。

- ボタンを押し続ける = メニュー間でスクロールします
- 左右、上下ボタンをそれぞれ押し続けることで、ステッチ間でスクロールできます。



«OK»ボタン

選んだ内容を確定します。



«針停止»ボタン

標準セッティングでは通常針は上で停止します。(画面の針の矢印は上向き)

- ボタンを押します。
 - ▶ クイックに針を上げ下げできます。
- ボタンを押し続けます。
 - ▶ 針が下がり、
 - ▶ 画面上の針の矢印が下向きになります。
 - ▶ この状態でミシンを止めると、針は常に最下位で停止します。
- ボタンを押し続けます。
 - ▶ 針が上がり、
 - ▶ 画面上の針の矢印が上向きになります。
 - ▶ この状態でミシンを止めると、針は常に最上点で停止します。



«留め縫い機能»ボタン (3 針留め縫い)

- 縫い始める前にボタンを押します。
 - ▶ ステッチ、または組合せステッチを縫い始める前に留め縫いします。
- ソーイング中にボタンを押します。
 - ▶ ステッチを縫い終わった後に留め縫いをします。
 - ▶ ミシンが自動的に止まります。
- 組合せステッチを縫っている最中にボタンを押します。
 - ▶ 組合せステッチを縫い終わった後で留め縫いをします。
 - ▶ ミシンは自動的に止まります。



針上停止位置と《返し縫い》ボタン

ソーイング中に《返し縫い》ボタンを押したとき、または針上停止機能を使って (例えばジグザグ縫いを縫って) ミシンを止めた後に返し縫いボタンを押したとき、ミシンは前進で一針縫い、その後に返し縫いをします。



針下停止機能と《返し縫い》ボタン

(例えばジグザグ縫いで) 針下停止機能を使ってミシンを止めたときに、《返し縫い》ボタンを押すとミシンは即座に返し縫いをします。



«模様反転機能»ボタン (左/右)

- ボタンを押します。
 - ▶ 選んでいるステッチが左右反転して縫えます。



«模様頭出し機能»ボタン

- ボタンを押します。
 - ▶ ステッチや組合せステッチの先頭から縫い始めます。



«バランス機能»ボタン

前進、後進のステッチのバランスを調節できます。



«BSR»ボタン

BSR押えがセットされている時に、BSR モード 1または2のボタンを押すと、BSR機能が起動します。



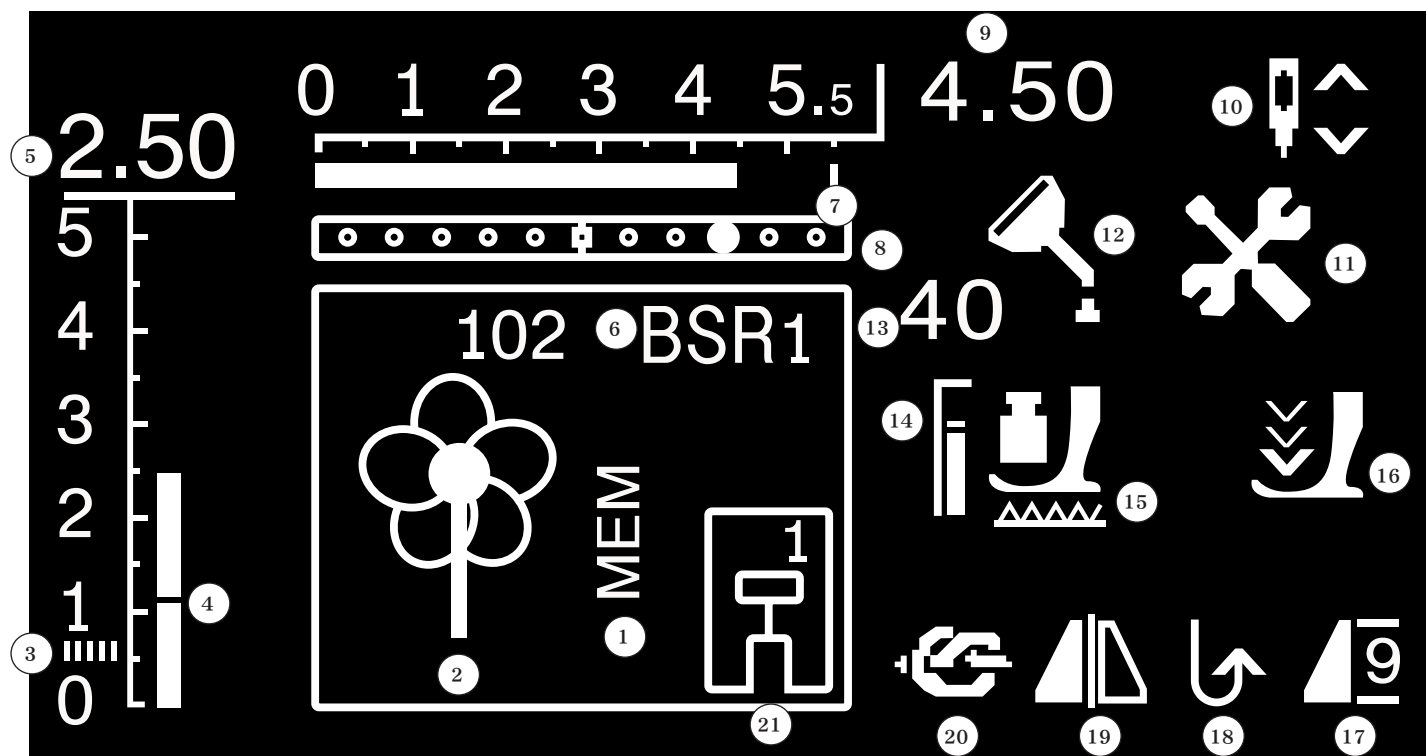
«clr»ボタン

- ボタンを短く押す
 - ▶ 現在縫っているステッチを標準の設定にリセットします。
- 使っている機能を全てオフにします。
 - ▶ シグナル音が聞こえるまでボタンを押したままにする。
 - ▶ 縫っているステッチの記憶されたすべての設定がリセットされます。
 - ▶ 使っている機能を全てオフにします。

例外:

- 針の上下停止

画面の一覧

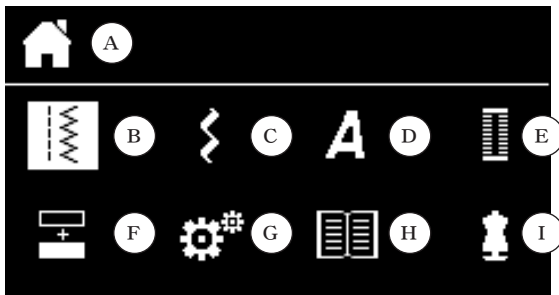


- 1 «MEM»表示はステッチがメモリーに記憶されていることを意味します。
- 2 ステッチ表示: イラストと番号で表示
- 3 サテンステッチ: 密度の濃いジグザグステッチ。
- 4 送り長さ: 標準の送り長さ
- 5 送り長さ: 実際に縫っている送り長さ
- 6 BSR: BSR モード 1または 2を表示
- 7 振り幅: 標準の振り幅
- 8 針基線: 11 ポジション
- 9 振り幅: 実際に縫っている振り幅
- 10 針停止位置上/下: 標準セッティングは針上停止/BSRモード1では下停止、BSRモード2では上停止。
- 11 サービスマーク: サービスが必要な時期になると表示されます。
- 12 クリーニング注油マーク: ユーザーにクリーニングと注油が必要と知らせるために表示されます。
- 13 押え圧: 圧力を調整するときに表示されます。
- 14 押え圧: 標準設定の表示。
- 15 送り歯表示: 送り歯が上、または下位置を表示します。
- 16 矢印と押え金表示: 押え金が上がった状態でミシンをスタートさせようとする则表示されます。
- 17 模様頭出し/繰り返し機能
- 18 連続返し縫い表示
- 19 模様反転 左/右
- 20 留め縫いプログラム
- 21 押え表示: 選んだステッチに推奨する押えの表示

メインメニュー



- «ホーム»ボタンAを押します。

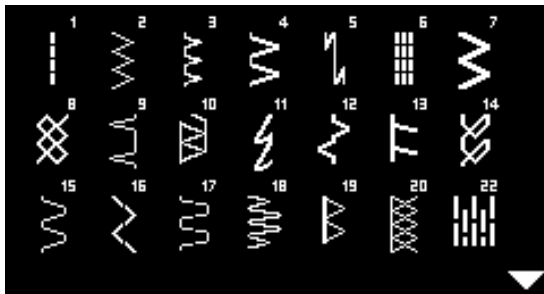


- A 選んだメニューが表示されます。
- B 実用縫い
- C 飾り縫い
- D アルファベット
- E ボタンホール
- F コンビ(組合せ)モード
- G セットアッププログラム
- H チュートリアル
- I ソーイングコンサルタント
- «ナビ»ボタンでメニューを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。

サブメニュー 例) 実用縫いステッチ



- «ホーム»ボタンを押します。



- «ナビ»ボタンで実用縫いカテゴリーを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «ナビ»ボタンでステッチを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。

システムの設定 セットアッププログラム



- «ホーム»ボタンを押します。



- «ナビ»ボタンを使って«セットアッププログラム»を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。



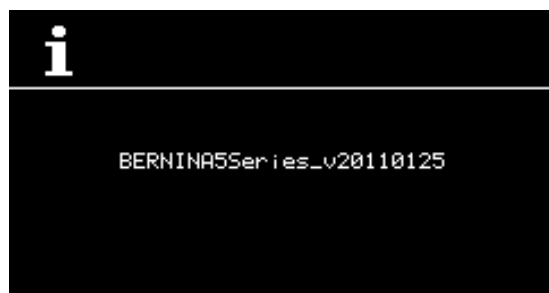
«設定»画面の一覧

- 1 画面の設定
- 2 インフォメーション
- 3 ミシンの注油
- 4 ゴミ箱
- 5 BSRのシグナル音



明るさとコントラスト

- «ナビ»ボタンの上／下ボタンを使っていずれかを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «ナビ»の左／右ボタンを使って明るさ、またはコントラストを調節します。



インフォメーション

ミシンの現在のソフトウェアのバージョン情報が表示されます。



注油マーク

- ▶ ミシンが360,000ステッチを縫った時点で表示されます。
- «ナビ»ボタンで «?»アイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ アニメーションで注油方法を表示します。
- 注油した後で«ナビ»ボタンで «注油»アイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «注油»アイコンの下に表示されたカウンターが0(ゼロ)にリセットされます。



基本設定

- «OK»ボタンを押します。
- ▶ すべての設定が基本に戻されます。



BSRのシグナル音

- 左側のアイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ シグナル音がオンになりました。
- 右側のアイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ シグナル音がオフになりました。

チュートリアル



- «ホーム»ボタンを押します。
- «ナビ»ボタンで«チュートリアル»アイコンを選びます。



- 1 ミシンの注油方法
- «OK»ボタンを押して確定します。



アニメーションがミシンの掃除と注油の仕方を表示します。

- «戻る»ボタンを二回押します。
- ▶ 主画面が表示されます。

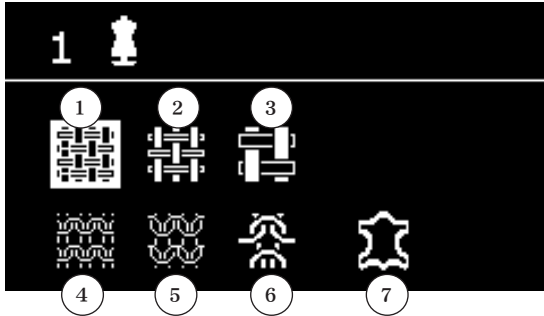
ソーイングコンサルタント

クリエイティブコンサルタントはいろいろなソーイングテクニックやヘルプ情報を提供します。布地を選んで、縫いたいテクニックを選ぶと、適したステッチ、押え金、押え圧、適した糸テンションなどの情報が表示されます。



- «ホーム»ボタンを押します。
- «ナビ»ボタンで«ソーイングコンサルタント»を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。

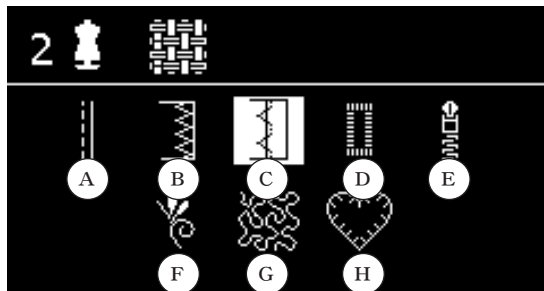
- «ナビ»ボタンで布地を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。



布地のタイプ

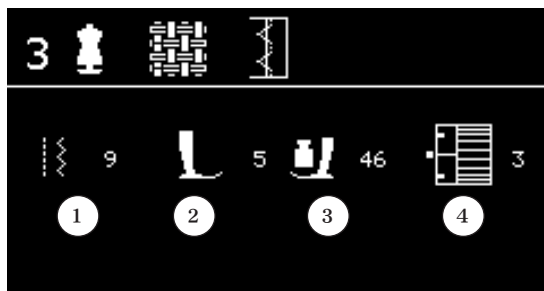
- 1 薄手の織地
- 2 中厚手の織地
- 3 厚手の織地
- 4 薄手のニット地
- 5 中厚手のニット地
- 6 厚手のニット地
- 7 レザー／ビニール

- «ナビ»ボタンを使ってソーイングテクニックを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ 推奨のセッティングが表示されます。



ソーイングテクニック

- A 直線・ジグザグ縫い
- B オーバーロック縫い
- C ヘムのまつり縫い
- D ボタンホール
- E ファスナー
- F 飾り縫い
- G フリーモーションステッチ
- H アップリケ



お薦めの縫い方

- 1 ステッチの番号
- 2 押え金
- 3 押え圧
- 4 糸調子

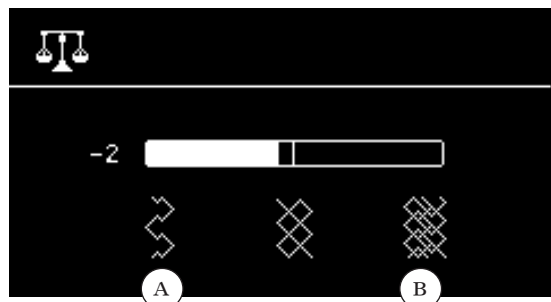
バランス

実用縫い/飾り縫いステッチ

ミシンはベルニナ工場出荷前に、試縫いされ最適な状態に調整されています。布地、糸、安定紙などのいろんな条件によっては、調節が必要な場合もあります。このような場合には、電気的なバランス調整によっていろんな条件を克服することができます。



- «バランス»ボタンを押します。



実用縫い／飾り縫いを修正する

- «ナビ»の左ボタンを押します。
 - ▶ ステッチのパターンを引き延ばすことができます。A（最大 20ステップ）
- «ナビ»の右ボタンを押します。
 - ▶ ステッチのパターンを縮めることができます。B（最大20ステップ）
- «バランス»または«戻る»ボタンを押します。
 - ▶ バランス画面が閉じられました。
 - ▶ 変更内容が保存されました。
- «clr»ボタンを押します。
 - ▶ バランスを基本の設定に戻します。

実用縫いの一覧

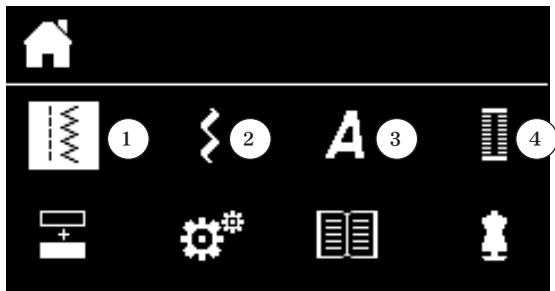
 1	直線縫い 伸縮性のない布地、すべての直線縫いに、縫い合わせ、トップステッチ、ファスナーの縫い付けに。	 12	ギャザーステッチ ほとんどのタイプの布地に。エラスティックでシャーリングやギャザー縫いに。キルト芯の突き合わせ縫いに：半端なキルト芯の接ぎ合わせや飾り縫いに。
 2	ジグザグ縫い オーバーロック縫いや、エラスティックの縫い付け、レースの縫い付けに。	 13	ストレッチオーバーロック 中厚手のニット地に、タオルや硬い織地に。オーバーロック縫いや、フラットシームに。
 3	バリオーバーロック 薄手のジャージー地に適しています。伸縮性のあるオーバーロック縫い、ヘム仕上げ、伸縮性のあるシームが可能です。	 14	ジャージーステッチ ジャージーに、ランジェリーなどの目立つ場所に、セーターやジャージーの縫い目に。
 4	ランニングステッチ いろんな布地に対応。繕い縫い、継ぎ接ぎパッチ縫い、補強等に。	 15	ユニバーサルステッチ フェルトやレザー等の硬めの布地に。フラットな接ぎ合わせ、目立つ縫い目、エラスティックの縫い付け、飾り縫い等に。
 5	留め縫いプログラム あらゆる素材に適用、直線縫いの縫い始めと終わりの留め縫いに。	 16	二点ジグザグ 布端の仕上げ、補強縫い、エラスティックの縫い付け、飾り縫い等に。
 6	トリプル直線縫い 硬い素材での耐久性のあるステッチ、ヘム縫いや縫い合わせ等に。	 17	ライクラステッチ 全方向性伸縮地に。重ね縫い、縁縫い、下着などの補強に。
 7	トリプルジグザグ縫い 硬い素材で耐久性のある縫い目に、ヘム縫いや縫い合わせに。	 18	ストレッチステッチ あらゆる伸縮地に。スポーツウエアなどの縫い合わせに。
 8	ネットステッチ あらゆるジャージーや滑らかな布地に、ランジェリーやリネン、繕い縫い等に。	 19	補強オーバーロック 中厚手のニット地やタオル地でオーバーロック縫いやフラットシームに。
 9	まつり縫い あらゆる素材に。まつり縫い、ジャージーや薄手の布地でのシェルステッチ効果等に。	 20	ニットオーバーロック 手編み、または機械編みのニット地で、オーバーロックステッチ= 直線縫いと布端かがりを一度に。
 10	ダブルオーバーロック あらゆるニット地に。縫うと同時に縁の始末ができます。	 22	自動繕い縫い 薄地や中厚手の布地で自動的に繕い縫い。
 11	スーパーストレッチ あらゆる伸縮性のある布地に、洋服などのオープンシームに。	 30	しつけ縫い しつけ縫い、ヘム縫い、キルト等に。

ステッチを選択する



メニューから

■ «ホーム»ボタンを押します。



■ «ナビ»ボタンでメインカテゴリー 1-4を選びます。

- 1 実用縫い
- 2 飾り縫い
- 3 アルファベット
- 4 ボタンホール

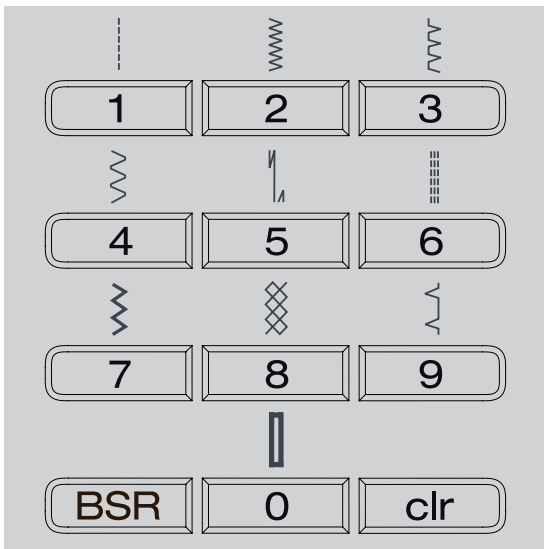
■ «OK»ボタンを押して確定します。

▶ ステッチが表示されます。

«ナビ»ボタンでスクロールして他のステッチも選ぶことができます。

■ «ナビ»ボタンでステッチを選びます。

■ «OK»ボタンを押して確定します。



ステッチ番号で選択

■ «ダイレクト選択»ボタンを使ってステッチ番号で選ぶことが可能です。

▶ ステッチ番号、基本設定の振り幅と送り長さが表示されます。

«ダイレクト選択»ボタンの0はステッチNo.51 (標準ボタンホール)を選びます。

一時的なステッチメモリー

各ステッチを好みの設定に変更できます。

布地や目的に応じてステッチの内容を変更することが可能です。ここに説明されている変更内容はすべての実用縫いや飾り縫いにも共用できる内容です。

送り長さや振রি幅の変更は自動的に記憶されます。

例えば:

- ジグザグ縫いでステッチの振রি幅を調節します。
- 別のステッチ(例えば直線縫い)を選びます。
- 再びジグザグ縫いに戻ると先ほど調節した振রি幅がそのままになっています。

標準の設定に戻すには

マニュアルでそれぞれの設定を標準に戻すことができます。

- «clr»ボタンを押すか、
- ミシンの電源を切ると
- ▶ ステッチに加えた変更はすべてクリアされます。

適用:

- 全てのステッチに。
- いろんなアプリケーションに適用できます。



一時的なメモリーステッチを使いこなせば限りなく便利です。どの番号のステッチにも有効です。(送り長さ、振রি幅、針基線、模様反転機能やバランス)。

一時的なステッチメモリーを固定する

ミシンをオフにしても、工場で設定された各ステッチの基本設定を変更したままで保存できます。標準の設定は常に画面上で確認できます。

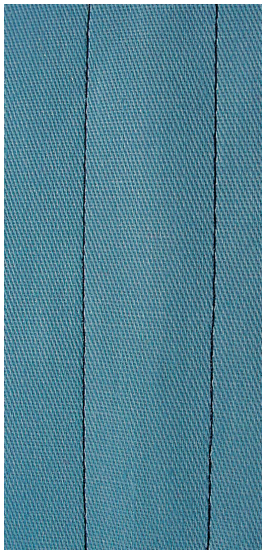
基本の設定を変更する

- たとえば、ジグザグステッチを選びます。
- 振রি幅と送り長さを変更します。
- «OK»ボタンを押します。
- ▶ 変更内容が保存されました。

変更した内容を取り消すには

- «clr»ボタンを押し続けるか、
- «ホーム»ボタンを押す。
- «設定プログラム»アイコンを«ナビ»ボタンで選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «削除»アイコンを«ナビ»ボタンで選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «基本設定»アイコンが選ばれました。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ 変更されたステッチは標準の設定に戻りました。

適用例： 直線縫い



標準押え/押え底 No. 1

直線縫い No. 1

ミシンをオンにすると直線縫いが表示されます。

使い方

すべての布地に適しています。



布に合わせて送り長さを調整する

例えば、デニム地には長い送り(約3-4 mm)を使い、薄地には短い送りを使います。(約 2-2.5 mm).

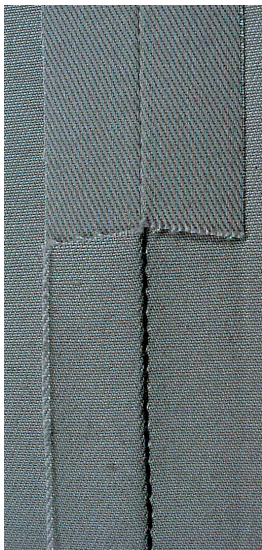
糸に合わせて送り長さを調整する

例えば、トップステッチにコルドネット糸を送りを長くして使います。(約 3-5 mm).

針停止を下に設定すると

ピボット縫い等をするときに、針が布に刺さって止まり布ずれを起こしません。

トリプルステッチ



標準押え金/押え底 No. 1

トリプルステッチ No. 6

縫い合わせ

耐久性のあるステッチ、硬い、目の詰まったデニムやコール天の様な布地に。



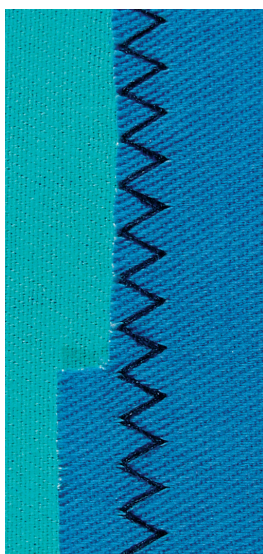
硬い、目の詰まった織地に

ジーンズ針とジーンズ押え No. 8 の組み合わせでデニムやキャンバス地を針折れせずに縫い易くします。

飾り縫いのトップステッチ

送りを長くして、トリプル直線縫いステッチを使って飾り縫いのトップステッチに。

トリプルジグザグ



標準押え/押え底 No. 1

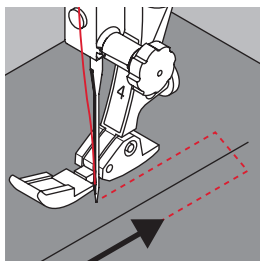
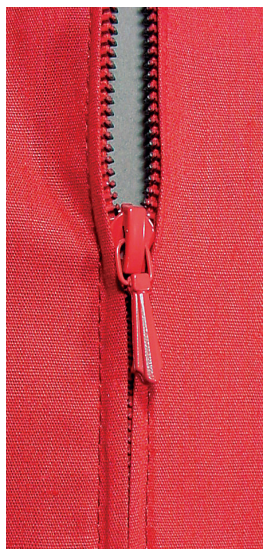
トリプルジグザグ No. 7

硬い素材や、特にデニムやデッキチェア用キャンバス地や天幕に。



よく洗う必要のあるものや屋外使用の生地 of 縫い合わせに。布端をまず仕上げます。非常に硬い素材にはジーンズ針を使います。

ファスナー



ファスナー押え/押え底 No. 4

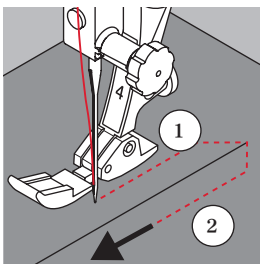
直線縫い No. 1

準備

- しつけ縫いで布地を接ぎ合わせます。
- 留め縫いをします。
- しつけを綺麗にかけます。
- 縫い代を仕上げます。
- アイロンをかけます。
- ファスナーを開きます。
- ファスナーをしつけ縫いします。
- ファスナーの位置を決め、布地の中心がファスナーの中心に揃うようにしつけ、またはまち針を打ちます。

ファスナーを縫いつける

- ファスナーを少しだけ開きます。
- 針基線を右に移動します。
- 左側の上から縫い始めます。
- ファスナーのコイル部分に沿って縫える位置に押え金を置くようにして下さい。
- むしの手前でミシンを止めます。(針は下で停止させます)
- 押え金を上げます。
- ファスナーを閉じます。
- 押えを下げます。
- 続けて縫い、一番下まで縫い、針を下で停止させます。
- 押えを上げます。
- 土台布を回転させます。
- 押えを下げます。
- ファスナーを横切って縫います。針を下で止めます。
- 押えを上げます。
- 土台布を再度回します。
- 押えを下げます。
- 反対側を底から上に向かって縫います。



応用: 両側を下から上に縫う

ベルベットのような毛足の長い布地に適しています。

- 上記のようにファスナー付けの準備をします。
- 片側を下から上に向かって縫い付けます。
- ファスナーのコイルの端に沿って斜めに縫います。
- 最初の側 1 は底からトップへ縫います。
- 針基線を左にします。
- 二番目の側 2 も同じようにして底からトップへと縫います。



ファスナーのむしの部分の縫い方

- － ファスナーを閉じた状態で、むしから5センチくらいのところまで縫います。
- － 針を下位置停止にしておいて、押え金を上げます。ファスナーを開き、むし部分を針に引っかからない位置まで引きます。押え金を下げ、縫いつづけます。(フリーハンドシステムを使うと便利です。)

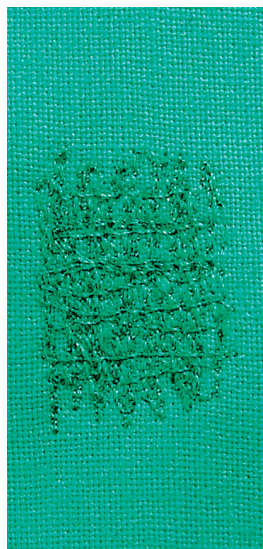
縫い始め

- － 縫い始めは、糸を手でしっかりつかんでファスナーが確実に縫い出されるまで、糸をわずかに後ろに引き加減にするとよいでしょう。
- － 最初に1-2cm返し縫いをして、縫い始めるとよいでしょう。

ファスナー地は厚くまた強い

ステッチを均一にするために、90/14-100/16番の針をお薦めします。

マニュアルの繕い縫い



ダーニング押え No. 9 */**

直線縫い No. 1

穴が空いたり、または摩耗した部分

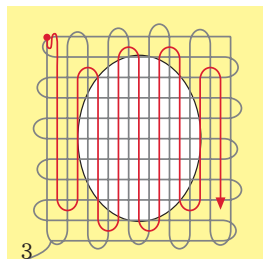
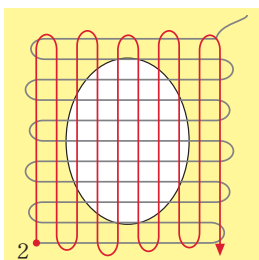
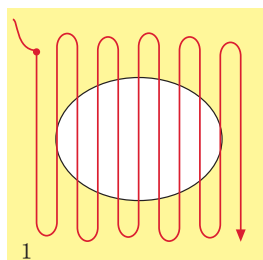
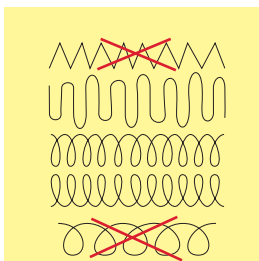
縦糸と横糸を足してつくろいます。生地の種類は問いません。

準備

- 送り歯を下げます。
- ソーイングテーブルを使います。
- 刺しゅう枠(オプション)に布地と芯地をセットします。
- ▶ ダーニングする付近は歪まないようにぴんと張った状態にしておきます。

ソーイング

- ー 左から右に縫います。その際、押え圧は0にしておきます。
- ー 縫い終わりで方向転換をするときは、滑らかなカーブを描くようにして動かします。急な方向転換は、穴が開いたり、針が折れたりする原因になります。
- ー 長さをいろいろ変えてつくろっていくと、糸が布のなかに埋もれて、目立たなくなります。



1 穴を覆うように最初の列を縫います。

- 最初の列は摩耗した周りを縫います。間隔が狭すぎないようにご注意ください。
- 縫う長さは、均一でないほうが目立たなくて効果的です。
- 布地を90度回します。

2 次に、最初の列の上を縫います。

- あまり間隔を近づけると、仕上がりが堅くなってしまうので、ご注意ください。
- 布地を180度回します。

3 穴の繕いが完了しました。

- 更に続けてゆるい列を縫います。



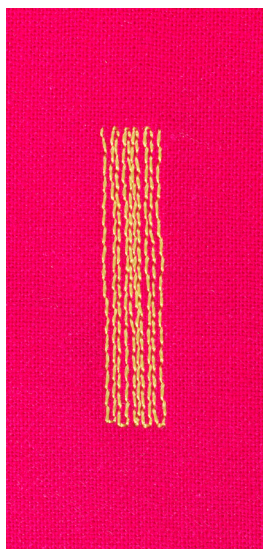
針目が揃わない

- ー 上糸が生地の表側でゆるむのは、針のスピードに対して、刺しゅう枠の動かし方が速すぎるからです。
- ー 生地裏側にループができるのは、刺しゅう枠の動かし方が遅すぎます。

糸が切れる

刺しゅう枠を滑らかに動かすようにして下さい。

自動繕い縫い



標準押え/押え底 No. 1

布ガイド付自動ボタンホール押え No. 3A

自動繕い縫い No. 22

ほころびや擦り切れた部分を、すばやくしっかりと繕います。
縦方向の繊維を補強するような感じで縫います。

準備

- 繕い縫い枠 (オプション) にうす手の布地をセットします。
- ▶ ダーニングする付近は歪まないようにぴんと張った状態にしておきます。

標準押え/押え底 No. 1を使った自動繕い縫い。

- 摩耗した箇所の左上に針を刺します。
- 最初に縦の1列を縫い、
- ミシンを止めます。
- «返し縫い» ボタンを押します。
- ▶ 長さがプログラムされます。
- 自動繕い縫いが完了します。
- ▶ ミシンは自動的に停止します。
- «clr» ボタンを押します。
- ▶ プログラムを解除します。

自動ボタンホール押えNo. 3A

- 小さなほころびや摩耗した個所を繕う。
- 繕う長さが最大3 cm
- 押え金 No. 1と同じ手順で縫います。



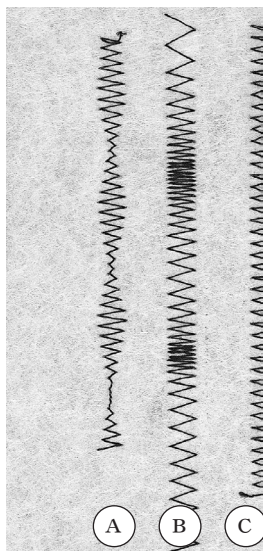
補強縫い

裏地に薄地の布地を当てたり、接着タイプの芯地を当てます。

繕い縫いが歪んでしまう時

バランス機能を使って修正します。(バランス機能 36ページ参照)。

ジグザグ縫い



標準押え/押え底 No. 1

ジグザグ縫い No. 2

- あらゆる布地に
- 縁かがりに
- エラスティックソーイング
- 飾り縫い

縁縫い

- 布端を押え金の中央に合わせます。
- 振りはあまり大きくないように。
- 送りもあまり長くないように。
- ジグザグの片側は布を刺し、反対側は布端すれすれの外側を刺すようにします。
- 布端は巻き込まないでフラットに仕上がるように。
- 薄手の布地には、細いダーニング用の糸を使います。

サテンステッチ

- 密度の濃い、幅の狭いジグザグ (送り長さは 0.5-0.7mm)
- サテンステッチでアップリケや刺しゅう等に。

- A 振りを変えたジグザグ
- B 送りを変えたジグザグ
- C ジグザグで縁縫い

ダブルオーバーロック



標準押え/押え底 No. 1

ダブルオーバーロック No. 10

縫い合わせに

目の粗いニットやニット地やジャージでクロスステッチを.



ニットとジャージー地

- 伸縮地に穴をあけてしまわないように、ジャージー針の使用をお勧めします。
- 必要に応じて押えの圧力を調節してください。

伸縮地を縫う

必要に応じてストレッチ針 (130/705 H-S)をお勧めします。

布端にトップステッチで飾り縫い。

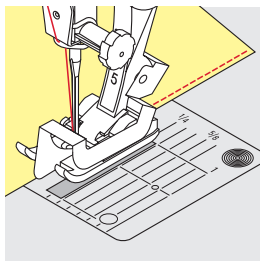
まつり縫い押え/押え底 No. 5
 標準押え/押え底 No. 1
 エッジステッチ押え No. 10 */**

直線縫い No. 1

小幅のエッジステッチ

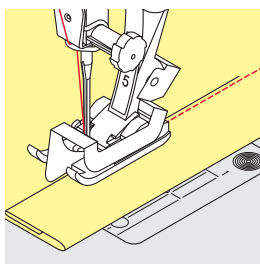
外側のエッジ

- 折り曲げた側の端をまつり縫い押え／押え底のガイド板の左側に当てます。
- 針基線を布端から適当な位置になるように移動します。



ヘムエッジ縫い

- 図のように布を折り曲げた端をまつり縫い押え/押え底のガイド板の右側に揃えます。
- 針基線を右にして、上端に沿って縫います。



まつり縫い押え/押え底 No. 5
 針基線はいちばん左、または右。

標準押え/押え底 No. 1 とエッジステッチ押え No. 10 (オプション)
 針基線はどこでも構わない。

ワイドエッジステッチ

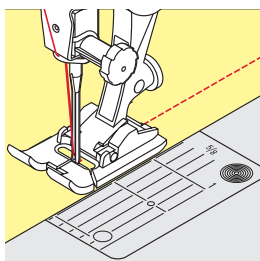
ガイドの方法

押え金をガイド:

- 布の折り山を、押え金の端に合わせる。

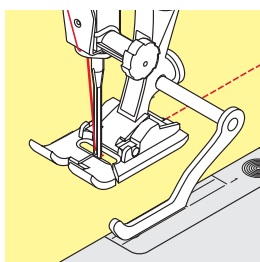
針板をガイド:

- 布の折山を針板上のけがき線に揃えてガイドします。(1 から 2.5 cm)



布ガイド:

- 押え金の後ろ側についているネジを緩めます。
- 布ガイドを押えの穴に差し込みます。
- 適当な位置でネジを締め付けます。
- 布の折り山をシームガイドに合わせて縫います。
- 前の縫い目をシームガイドに合わせて、平行に縫うことができます。

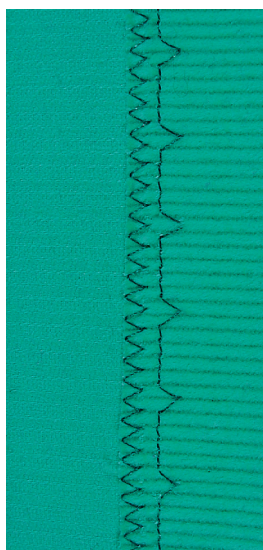


押えシャンク/押え底

- 布ガイドを押えシャンクの穴に差し込みます。
- 布ガイドをずらして位置を決めます。
- 前の縫い目をシームガイドに合わせて、平行に縫うことができます。

幅広く平行な線を縫いたいときは、布ガイドをまえに縫ったラインに揃えてガイドします。

ヘムのまつり縫い



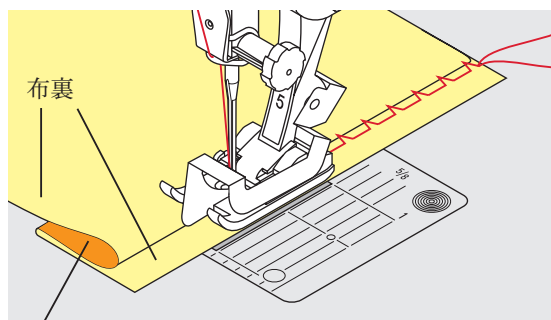
まつり縫い押え/押え底 No. 5

まつり縫い No. 9

コットン、ウール、混紡の中厚手の生地に、目立たない縁縫いをするのに使います。

準備

- 布端を切りそろえます。
- 布端の表を外にして折り、しつけ縫い、またはしつけピンを打ちます。



- そのままで、布地を中表に折り、布端を右側に出します。
- 布地を押えの下に置き、
- 折り曲げた部分が押えのガイド板の左側にあたるようにセットします。

ソーイング

- ー スナップオンタイプのまつり縫い押えの布ガイド板はネジを回して左右に動かして位置を調節できます。
- ー 左にジグザグした時に、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意して縫います。
- 10cmほど縫ったら、生地を表裏をチェックして、必要であれば再度振り巾を調整します。



振り幅の微調整

折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります＝均等なかがり。
押え上のガイドに沿って布端をガイドすると、ステッチの奥行きが均等に保てます。

フラットヘムステッチ



標準押え/押え底 No. 1

ジャージーステッチ No. 14

ジャージー、コットン、化繊、混紡地等で伸縮性のあるフラットヘムステッチに。

準備

- ヘムにアイロンを掛け、必要に応じてしつけます。
- 押え圧を必要に応じて下げます。

ソーイング

- 布端から適当な右側の位置にヘム縫いします。
- 布裏ではみ出た布地をハサミで切り落とし揃えます。

留め縫いプログラム



標準押え/押え底 No. 1

留め縫い No. 5

- あらゆる布地に。
- 縫い始めおよび縫い終わりを留め縫いします。

直線縫いで長い縫い目を縫います。
決まったステッチ数で留め縫いをします。

縫い始め

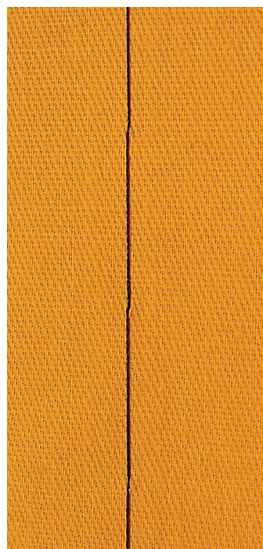
- フットコントローラーを踏みます。
- ▶ ミシンは縫い初めに自動的に(5針前進、5針後進)で留め縫いをします。
- 必要な長さを縫います。



縫い終り

- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ ミシンは(5針後進、5針前進)して自動的に止まります。
- ▶ ミシンは留め縫いの後自動的に止まります。

しつけ縫い



ダーニング押え No. 9 */**

しつけ縫い No. 30

- 長いステッチでしつけをします。
- しつけ、へム、キルト等に。
- 仮縫い。
- 簡単に取り除ける。

準備

- 送り歯を下げます。
- しつけする方向にまち針を打って、
- ▶ 布地がずれないようにします。

しつけ縫い

- 押え金の下に布地を置きます。
- 最初の一針を縫うときは上下の糸を指で持ちます。
- その状態で布地をまつり縫いの長さだけ後ろに引っ張ります。
- 一針縫います。
- 繰り返します。



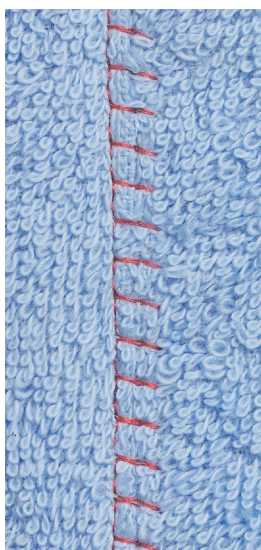
留め縫いして糸を固定する

送り歯を下げて、最初と最後で、3-4針縫って留め縫いします。

糸

取り除きやすいようにしつけ縫い糸や繕い縫い糸を使います。

フラット縫い



TTTTT

標準押え/押え底 No. 1

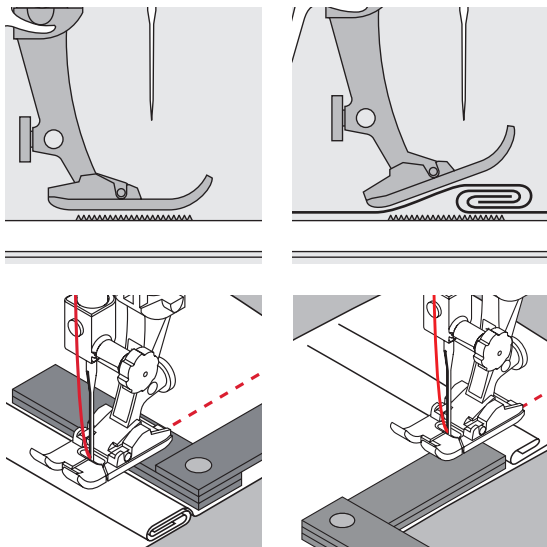
ストレッチオーバーロック縫い No. 13

タオル地、フェルト、レザーなどのふわふわした生地最適。

ソーイング

- 布端を重ねます。
- 布端に沿って、ストレッチオーバーロックで縫います。
- 上側の布端に沿って縫います。
- ▶ 耐久性のある、フラットな縫い合わせ。

不均一な表面での高さ矯正に



送り歯は、押え金が水平になっている場合、もっとも効果的に働きます。

押えが水平でないときは、送り歯が正確に布を遅れないので、縫い目が乱れます。布地が噛み込むかもしれません。

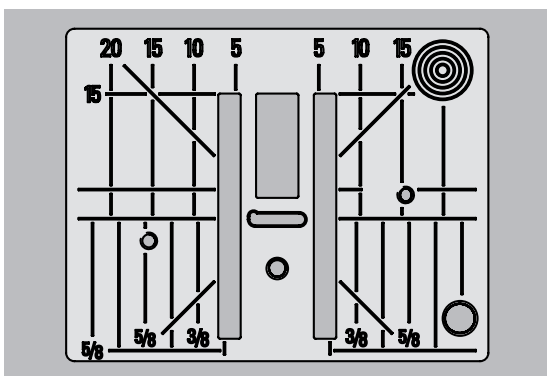
その場合には、図のようにして、高さ調整板を必要な枚数、押えの下に置くようにします。

押えの前方の高さを調節するために、一枚か二枚の高さ調節板を押えの下、出来るだけ針に近い位置に挿入します。押えが水平になったら調節板を取り外します。

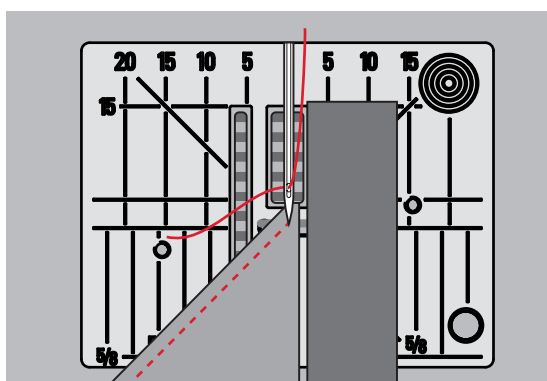


針停止位置下。

コーナーを縫う



針板の上では布を送るために三つの送り歯が上下運動をしています。



しかしコーナーを縫う時には、僅かな布地しか送り歯に接触しません。これでは布をしつかり送ることが出来ません。

一枚か二枚の高さ調節板を押えの下に押えに平行に挿入することで、布送りを補正することが出来ます。

▶ 布地が均等に送られます。



針停止位置下。

ボタンホールの一覧

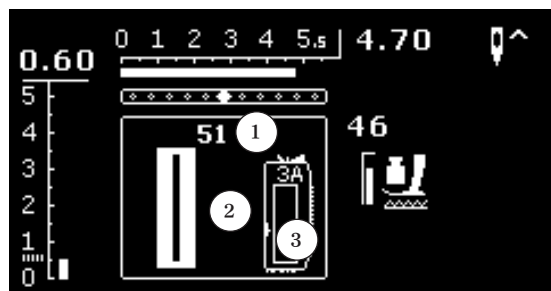
 51	標準ボタンホール 薄手から中厚手の布地、ブラウス、シャツ、ズボン、ベッドリネンなどに。	 59	直線ボタンホール ボタンホールを押さえる、補強する、またはポケットの開き口に使うステッチ。特に本皮、合成皮革の素材に使用します。
 52	幅の狭いボタンホール 薄手から中厚手の布地に、ブラウス、ドレス、子供服や赤ちゃん服に。	 60	ボタン縫い付けプログラム 二つ穴、四つ穴ボタンの縫い付けに。
 53	ストレッチボタンホール コットン、ウール、シルクや伸縮地に。	 61	ジグザグアイレット * コード穴、リボン穴、飾り縫いに。
 54	ラウンドボタンホール 中厚手から厚手の布地に、ドレス、ジャケット、コート、レインコートなどに。	 62	直線アイレット コード穴、リボン穴、飾り縫いに。
 56	はと目ボタンホール 厚手、非伸縮性布地、ジャケット、レジャーウェアに。	 63	ヘアロームボタンホール 薄手から中くらいの厚みの織地に。ブラウス、ドレス、レジャーウェア、ベッドリネンに。

ボタンホールー重要な情報

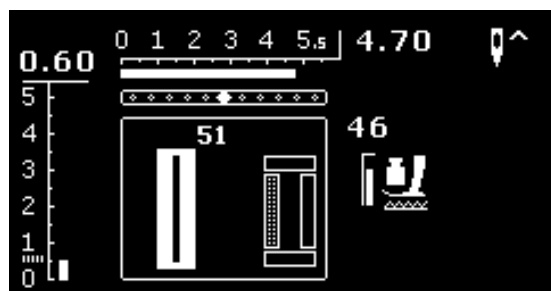
ボタンホールステッチは単に止め具のためだけではなく、飾りとしての効果も多くあります。



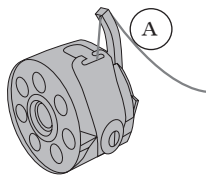
- «ホーム»ボタンを押します。
- «ナビ»ボタンで «ボタンホール» を選びます。
- «OK»ボタンを押して確認します。
- «ダイレクト選択»ボタンで縫いたいボタンホールを選びます。



- 画面の表示:
- 1 ボタンホールステッチ番号
 - 2 ボタンホールのアイコン
 - 3 押え金の表示



縫い始めると、押え金の表示の代わりに、ボタンホールの実際の縫い順が表示されます。

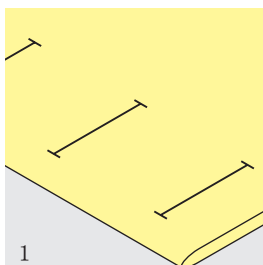


ボタンホール用の糸調子

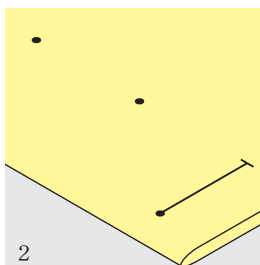
- ポピンケースの角 A に下糸を通します。
- ▶ 下糸のテンションが少し強くなります。
- ▶ 上糸が下側に引かれて、穴かがりが布表側で丸く仕上がります。



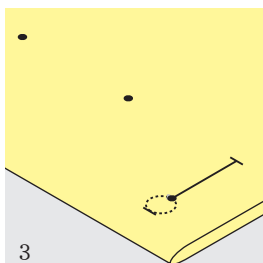
芯糸がボタンホールを強化し、かつ見栄えを良くします。(54ページを参照)。



1



2



3

1 マニュアルボタンホールの印のつけ方

- 縫う場所に、必要な数のボタンホールの長さの印を付けます。
- ボタンホール押え/押え底 No. 3 */** を使います。

2 自動ボタンホールの印のつけ方

- ボタンホール一つ分の印を付けます。
- ▶ 最初のボタンホールを縫うと、次からは自動的に同じボタンホールを縫います。
- 2番目以降のボタンホールは、縫い始めのみに印を付けます。
- 自動ボタンホール押えNo.3Aを使います。

3 はと目ボタンホールの印のつけ方

- 直線部分の穴かがり縫いの長さの印を付けます。
- ▶ はと目部分は自動的に追加して縫われます。
- ▶ 一つ目のボタンホールが縫い終わったら、次のボタンホールからは全て自動で縫えます。
- 2番目以降のボタンホールは、縫い始めのみに印を付けます。
- 布ガイド付き自動ボタンホール押えNo. 3Aを使います。

試し縫い

- 必ずまず同じ布地で試し縫いし、
- 芯地も同じものを使います。
- ボタンホールステッチを選択します。
- ボタンホールは、布の方向、水平、垂直方向、布の順目、逆目には関係無く、常に同じ方向に縫います。
- ボタンホールを切り開きます。
- ボタンを通してみます。
- もし長さ等に問題があれば、調整します。

穴かがり幅を調節するには

- 振り幅を調整して下さい。

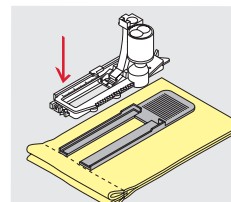
送り長さを変えてみる

送りの長さを調節するとボタンホールの穴かがりの長さに影響します。

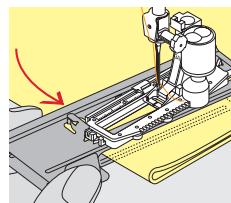
- ▶ ステッチ間のスペース
- 送り長さを変えた場合、
- ▶ ボタンホール縫いを再度やり直して長さを記憶させます。



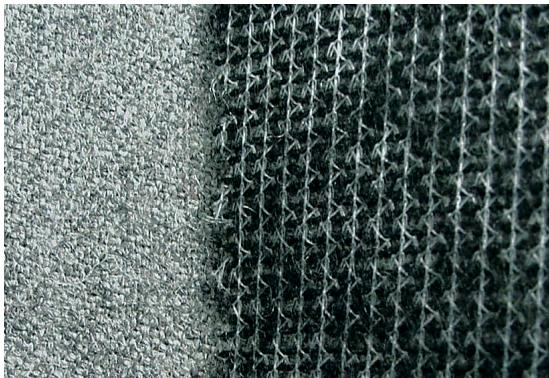
ボタンホールを角や段差部分に縫うときは、ボタンホールガイドアタッチメント(オプション)を使われることをお勧めします。高さ調節板は押えの後ろ側から押えと布との間にスライドさせ、段差を解消するようにセットします。



ボタンホールを送りの不安定な布地に縫うときは、ボタンホールガイドアタッチメント(オプション)を使われることをお勧めします。ボタンホール押えNo. 3Aと一緒に使います。



安定紙と芯地

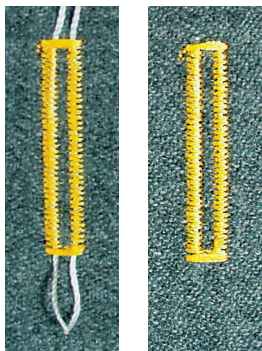


- － 芯地はボタンホールの耐久性を補強します。
- － 布地に合った芯地を選んでください。



- － 厚地で毛深い布地に縫う時は刺しゅう用の安定紙が役に立ちます。
 - ▶ 布の送りが安定します。

芯糸の効果

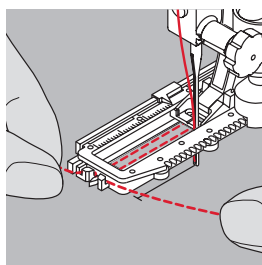
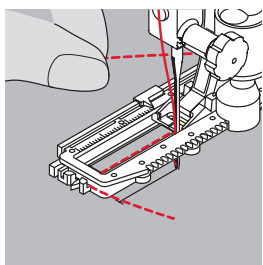


実際に縫うときには：

- － 芯糸はボタンホールを補強し、型くずれを防ぎ、見栄えを良くします。
- － 芯糸の輪の部分に、通常もつとも力の掛かる側にくるように入れます。ボタンが止まる位置が、芯糸の輪の部分にくるように一致させます。
- 位置を確認してセットします。

理想的な芯糸のタイプ

- － パールコットン刺しゅう糸 No. 8
- － 強度のある手縫い糸
- － かぎ編み用ヤーン

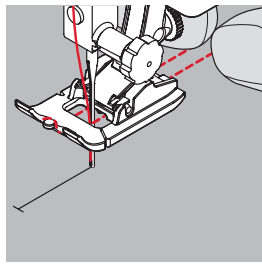
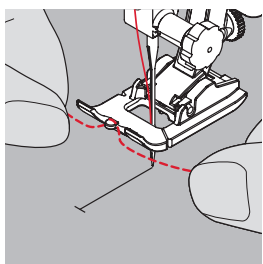


自動ボタンホール押えNo. 3Aを使った芯入りボタンホール

- ボタンホール押えNo. 3Aを上げます。
- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- ボタンホール押えNo. 3Aの右側の下に紐をガイドします。
- ボタンホール押え No. 3Aの後方にあるピンに芯糸を掛けます。
- 芯糸を手前に引いてボタンホール押え No. 3A の前の溝にはめ込みます。
- 芯糸を押え金の止め具に引っ掛けます。
- ボタンホール押え No. 3Aを下げます。

ソーイング

- 通常の方法でボタンホールを縫います。
- コードをもた ない ように。
- ▶ ボタンホールは芯糸をカバーするように縫われます。

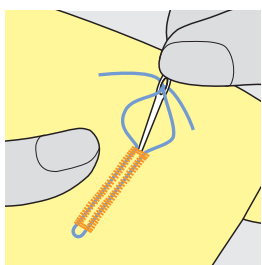


コードをセットしたボタンホール押え/押え底 No. 3 */**

- 押え金を上げます。
- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- ボタンホール押えの(前方の)突起に芯糸を掛けます。
- 芯糸をボタンホール押えの下側を通して後方に引きます。
- 芯糸の両側を押えの下溝にはまるように持ち、
- 押え金を下げます。

ソーイング

- ボタンホールを通常の方法で縫います。
- 芯糸を引っ張らない ように 。
- ▶ ボタンホールが芯糸をカバーするように縫われます。



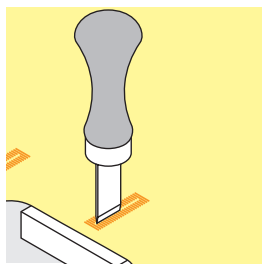
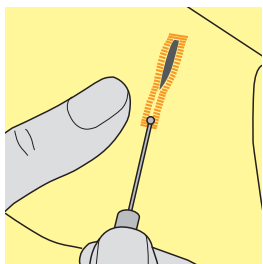
芯糸を留める

- 芯糸を引っ張って、ループ部分がボタンホールの縫い目の端に隠れるようにします。
- かかり針を使って、糸端を裏側に出します。
- 結ぶか、留め縫いをします。



ボタンホールをカットして開く前に

間違っってパータックを切ってしまうように、まち針をボタンホールの両端に刺します。



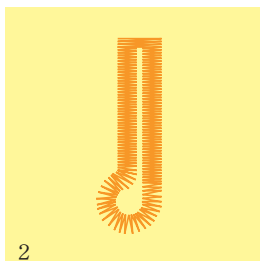
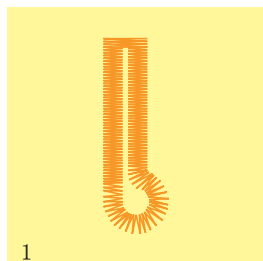
シームリッパーを使ってボタンホールを開ける

- ボタンホールの両端から中央に向かってボタンホールを開けます。

ボタンホールカッター(オプション)を使ってボタンホールを切り開く。

- 布をブロックの上におきます。
- カッターを、ボタンホールの中央に当てます。
- カッターを力強く押し下げます。

バランス



送りバランスの微調節

ボタンホールでは両側を同一方向に縫いますので、バランスを調節すると、両側の穴かがりを均等に調節します。

はと目やアイレットのバランス調節は次のように行います。

- 直線部分を縫います。
- ▶ はと目部分に達したところで、
- ミシンを止めます。
- «バランス»ボタンを押します。
- ▶ バランス調節画面が表示されます。



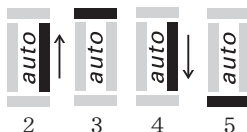
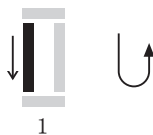
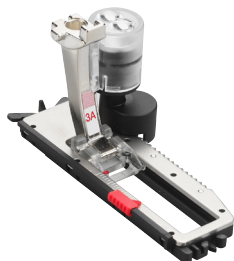
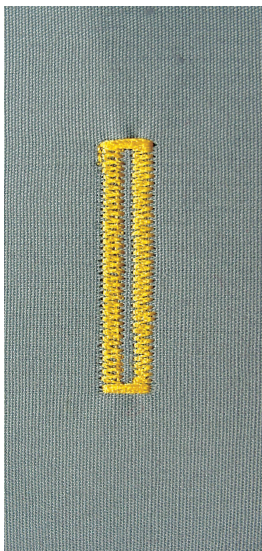
- 1 はと目が右方向に歪んでいます。
- «ナビ»ボタン左を押します。
 - ▶ はと目のバランスが修正されました。
- 試し縫いを!

- 2 はと目が左方向に歪んでいます。
- «ナビ»ボタン右を押します。
 - ▶ はと目のバランスが修正されました。
- 試し縫いを!



ボタンホール縫いが終わったら、必ずバランス調節を元に戻してください。
36ページ参照)

自動操作による標準、伸縮地用ボタンホール



自動ボタンホール押え No. 3A

自動標準ボタンホールと伸縮地用ボタンホール No. 51, 52, 53

自動ボタンホール押え No. 3A のセンサー用レンズが正確にボタンホールサイズを記憶して繰り返し縫いを可能にします。

準備

- 縫いたいボタンホールを選びます。

画面表示:

- ▶ 選んだステッチの番号.
- ▶ 自動ボタンホール押え No. 3A



布ガイド部分は布地の上で平らに接するように。布ガイド部分が縫い代などの重なる部分に掛かって斜めになっていると正確な布送りができません。

最初のボタンホールをプログラムする

- 1 ■ 最初の穴かがりを前進で縫います。
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ «auto» が画面上に表示されます。
- ▶ ボタンホールのサイズが記憶されました。

次のステップを自動で縫い進みます。

- 2 後進で直線縫いを縫います。
- 3 最初のバータックを縫います。
- 4 もう一方の穴かがりを前進で縫います。
- 5 二番目のバータックを縫い、留め縫いをします。
- ▶ ミシンが自動的に止まり、また最初のスタート位置に戻ります。

自動ボタンホール

- このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
- 一旦自動で縫ったボタンホールは記憶しておくことができます。(58ページ参照)
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。



繰り返し縫い

自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

ソーイングスピード

- 中ぐらいのスピードで縫いましょう。
- 同じスピードで縫うのが穴かがりの縫い目を揃える秘訣です。

自動ラウンド、はと目ボタンホール



布ガイド付自動ボタンホール押え No. 3A

自動ラウンド、はと目ボタンホール No. 54, 56

準備

- 縫いたいボタンホールを選びます。

画面表示:

- ▶ 選んだステッチの番号
- ▶ 自動ボタンホール押え No. 3A



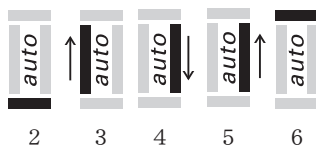
布送りガイドが平らに布地に接していなければなりません! 布ガイド部分が縫い代などの重なる部分に掛かって斜めになっていると正確な布送りができません。



1

最初のボタンホールをプログラムする

- 1 ■ 直線を前進で縫います。
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ «auto»が画面に表示されます。
- ▶ ボタンホールの長さが記憶されました。



次のステップを自動で縫い進みます。

- 2 はと目
- 3 最初の穴かかりを後進縫いで。
- 4 直線で前進縫い。
- 5 もう一方の穴かかりを後進で縫います。
- 6 パータックと留め縫い
- ▶ ミシンが止まり、ボタンホールのスタート位置に戻ります。

自動ボタンホール

- このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。(«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。)
- 一旦自動で縫ったボタンホールは記憶しておくことができます。(58ページ参照)
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。



繰り返し縫い

自動機能を使って同じボタンホールを正確に二度縫いすることができます。

はと目ボタンホールを二重に縫う

- 厚い布地でははと目ボタンホールを二度縫いするとしっかりした仕上がりになります。一度目は送り長さを少し大きくします。送りを変えても全体のボタンホールの長さは変わりません。
- 最初のボタンホールを縫い終わった後、そのまま押え金も布地も動かさないで下さい。
- 送り長さを少し短くして、もう一度ボタンホールを縫います。

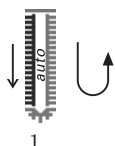
ヘアロームボタンホール

自動ボタンホール押え No. 3A

ヘアロームボタンホーム No. 63

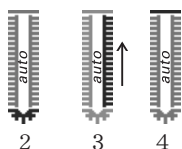
準備

- ボタンホールを選択します。
- 画面表示：
 - ▶ 選んだステッチの番号
 - ▶ 自動ボタンホール押え No. 3A



最初のボタンホールをプログラムする

- 1 ■ 最初の穴かがりを前進で縫います。
- ミシンを止めます。
- «返し縫い»ボタンを押します。
- ▶ «auto» が画面上に表示されます。
- ▶ ボタンホールのサイズが記憶されました。



ミシンは次のステップを自動的に縫います：

- 2 ラウンド部分
- 3 もう一方の穴かがりを後進で縫います。
- 4 パータックと留め縫い
- ▶ ミシンが自動的に停止して、ボタンホールのスタート位置に戻ります。

自動ボタンホール

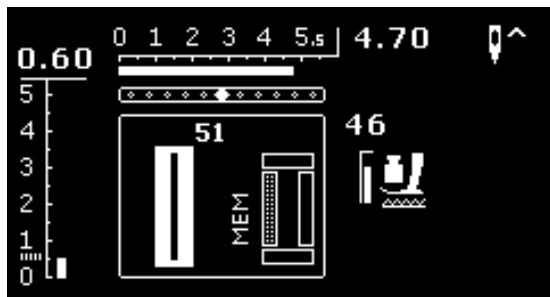
- ▶ このあとは、全て自動で同じサイズのボタンホールを縫います。（«返し縫い»ボタンを押す必要はありません。）
- 一旦自動で縫ったボタンホールは記憶しておくことが出来ます。
- «clr»ボタンを押します。
- ▶ プログラムしたボタンホールは消去されました。

ボタンホールを記憶する

ボタンホールを記憶する

- ボタンホールをプログラムする。
- «OK»ボタンを押す。
- ▶ ボタンホールはメモリーに保存されました。
- ▶ «mem»が画面に表示されます。

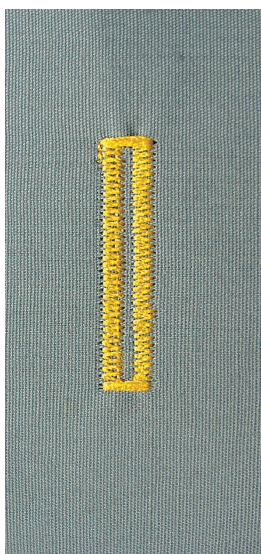
保存したボタンホールを縫う



保存したボタンホールはミシンの電源を切っても再び呼び出して縫うことが出来ます。

- 縫いたいボタンホールを選びます。
- 保存したボタンホールを縫う。
- ▶ 保存できるボタンホールのは一つだけです。
- «OK»ボタンで新しいボタンホールが記憶されたら、以前に保存されていたボタンホールに上書きされます。

マニュアルボタンホール(全タイプ)



マニュアル式ボタンホール縫いは、一つだけ特殊なサイズのボタンホールを縫ったり、既存のボタンホールの補修などに便利です。
縫うステップは選んだボタンホールにより異なります。
マニュアル式で縫ったボタンホールは記憶させることはできません。

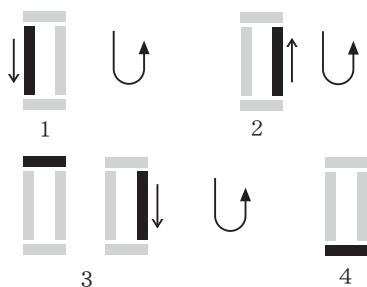
ボタンホール押え／押え底 No. 3 */**

準備

- 縫いたいボタンホールを選びます。

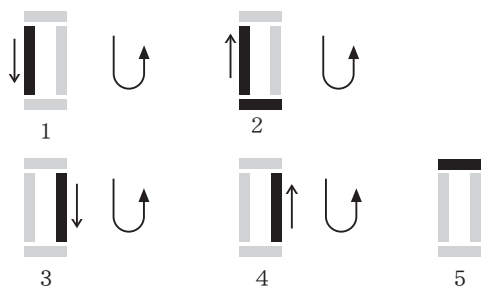
画面表示：

- ▶ 選んだステッチの番号
- ▶ 自動ボタンホール押え No. 3A



マニュアルで標準ボタンホールを縫う

- 1 ■ 最初の穴かがりを直線で必要な長さだけ縫います。
■ ミシンを止めます。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 2 ■ 直線縫いを後進で縫います。
■ ミシンを(最初に縫い始めた)位置に等しいところで止めます。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 3 ■ 最初のバータックを縫い、続いてもう一方の穴かがりを縫います。
■ ミシンを止めます。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 4 ■ 手前のバータックを縫い、留め縫いをします。



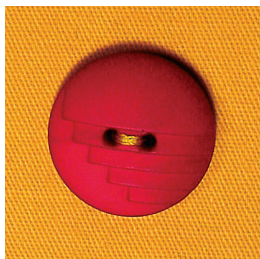
マニュアルではと目またはラウンドボタンホールを縫う

- 1 ■ 左側を前進で直線縫いをし、印をつけたところまで縫います。
■ ミシンを停止します。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 2 ■ はと目部分を縫い、左側の穴かがりジグザグの返し縫いで縫っていき、ボタンホールの縫い始めの位置まで戻りミシンを止めます。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 3 ■ 右側を直線縫いします。
■ はと目の手前でミシンを止めます。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 4 ■ 右側の穴かがりを後進で縫っていき、ボタンホールの縫い始めの位置まできたらミシンを止めます。
■ «返し縫い»ボタンを押します。
- 5 ■ バータックを縫い、留め縫いします。



左右の穴かがりを同じスピードでゆっくり縫います。

ボタン付け



ダーニング押え No. 9 */**
ボタン付け押え No. 18 */**

ボタン付けプログラム No. 60
二つ穴、四つ穴のボタン。

ボタンを縫い付ける

飾り用のボタン付けは、シャンク（ボタンと布の間に、高さを出すために巻く糸）は不要です。

ボタンを浮かせて（＝ボタンと布地の間を空けて）縫い付けたい場合は、オプションのボタン付け押え No. 18を使うとボタンの高さを自由に調節できます。

ダーニング押え No. 9 */**を使ってボタン付けをする

- ボタン付けプログラムを選択します。
- はずみ車を手で回して針をジグザグさせて、ボタンの穴と穴の距離を測ります。
- 必要ならば振り幅を調整します。
- 上下の糸を手で持ちながら、縫い始めます。
- 最初に左側の穴で留め縫いをします。
- 自動でジグザグ、留め縫いを繰り返しながら縫います。
- ▶ ミシンが自動的に止まるまで縫い続けます。次のボタンを縫いましょう。

始めと終わりの糸始末

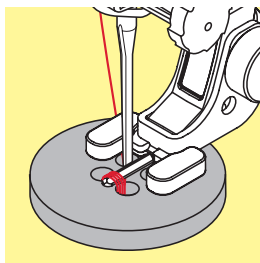
糸は留め縫いされていますので、余分な糸を切り取ります。

糸の始末

- 両方に糸を布地の裏側に引き出します。
- 両方の糸を布裏で結びます。
- 余分な糸を切り取ります。

ボタン付け押えNo. 18 */**を使って縫う

- 押えのシャンクにある調節ネジでボタンの浮き加減を調節します。
- ボタン付けプログラムを選び、ダーニング押え No. 9 */**と同じようにして縫います。



四つ穴のボタンを縫う

- 手前側の穴をまず縫います。
- ボタンを手前に移動します。
- 同じ要領で、後ろ側の穴を縫います。



強度を増したいときは、二度繰り返して縫うことをお勧めします。

アイレット



標準押え/押え底 No. 1

ジグザグアイレット No. 61 *

直線アイレット No. 62

アイレット

- アイレットを選びます。
- 布地を押えの下に置き、アイレットを縫います。
- ▶ ミシンは自動的に止まります。

アイレットに穴を開ける

- 千枚通し、パンチ・プライヤー、穴あけなどでアイレットに穴を開けます。



アイレットの形状がいびつな場合はバランス機能を使って調節します。
しっかりしたアイレットには、二度縫いをお勧めします。

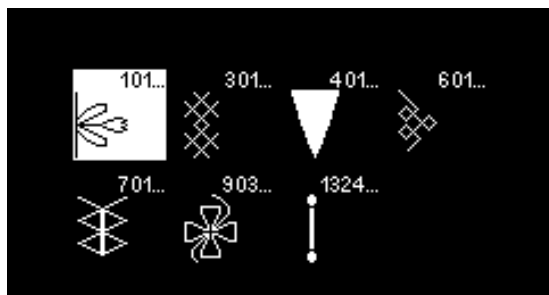
飾り縫いを選ぶ



- «ホーム»ボタンを押します。



- «飾り縫い»アイコンを«ナビ»ボタンで選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。



- ▶ 画面にカテゴリーの一覧が表示されます。
- «ナビ»ボタンを使ってカテゴリーを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ 選んだカテゴリーが表示されます。
- ステッチを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。

使い方

シンプルなデザインや複雑なものなど、布地にあわせて飾りステッチを選びます。

- － 薄地には、飾り縫いステッチと直線縫いを組み合わせるとよいでしょう。例えば飾り縫いステッチ No. 101等。
- － 中厚手の布地などには飾り縫いと直線縫いまたは幾つかのサテンステッチを組み合わせるのも趣向があります。例えば、飾り縫いステッチ No. 615等。
- － 中厚地には、飾り縫いとサテンステッチを組み合わせるとよいでしょう。例えば飾り縫いステッチ No. 401等。



カテゴリー

- カテゴリー100 = 花
- カテゴリー300 = クロステッチ
- カテゴリー400 = サテンステッチ
- カテゴリー600 = 飾り縫いステッチ
- カテゴリー700 = ヘアロームステッチ
- カテゴリー900 = 斬新なステッチ
- カテゴリー1300 = キルトステッチ

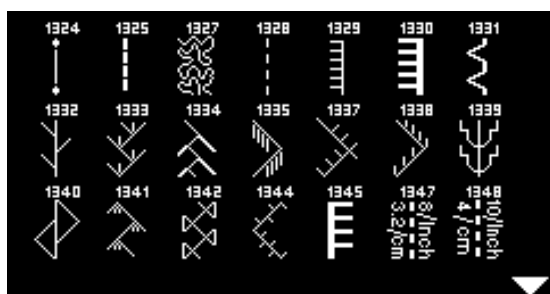


完璧なステッチを縫うには

- － 上下に同じ色の糸を使うようにしましょう。
- － 布裏に安定紙を使って布地を補強します。
- － パイル地や毛足の長い材質の布地には表側に水溶性の安定紙をあてて縫うとよい結果が得られます。(例えば、ウール、ベルベット等。) 縫ったあとで簡単に取り除けます。

キルトステッチの一覧

キルティング、パッチワークやアップリケ等に最適ないろんなステッチが用意されています。



- «ホーム»ボタンを押します。
- «ナビ»ボタンを使って «飾り縫いステッチ»アイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ カテゴリーの一覧が画面に表示されます。
- キルトステッチのカテゴリーを選びます。
- «OK»ボタンを押して確認します。
- 縫いたいステッチを選びます。



キルター用留め縫い機能



フェザーステッチ



直線キルティング ステッチ *



各種フェザーステッチ
1333-1338 * (部分的に)



スティップリングステッチ



各種飾り縫いキルトステッチ
1339-1342, 1344-1345 * (部分的に)



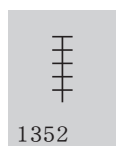
手縫い風キルトステッチ



各種手縫い風キルトステッチ *
1347-1348



ブランケットステッチ



ブランケットステッチ (上送り)



ダブルブランケットステッチ



ダブルブランケットステッチ (二重) *

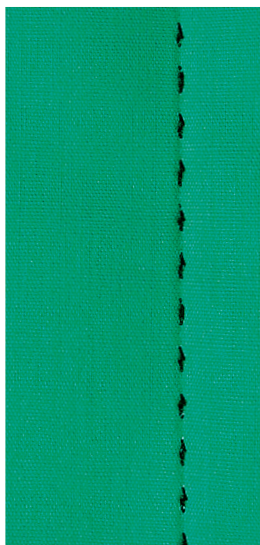


まつり縫い (狭い)



サテンステッチ

手縫い風キルトステッチ



10/inch
4/cm
8/inch
3.2/cm

標準押え/押え底 No. 1

手縫い風キルトステッチ No. 1328, 1347 *, 1348 *

手縫いの風合いを持たせたい作品に最適です。

糸

- － 上糸=モノフィラメント
- － 下糸=30／2コットン糸

試し縫い

- ▶ 上糸のテンションを強くして下糸を表側に引き上げてステッチを作り出します。
- － 下糸が一針 ずつ見えます。
- － 透明モノフィラメント糸は一針 縫っても見えません。= 手縫い風効果

上糸テンション

布地により上糸テンションを強く (6-9)します。

バランス

バランス機能を使って必要に応じてステッチを調節します。



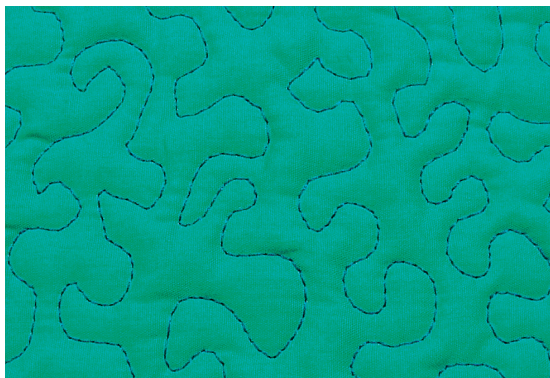
角の縫い方 (ピボッティング)

- － «針停止»ボタンを押し、針を下げ、«一模様縫い/繰り返し»ボタンを押し、布地を回します。
- － ピボット(針を刺して布を回転させる)する時は、布が角で歪まないように気をつけましょう。

ナイロン糸が切れる場合

- － ゆっくり縫ってみてください。
- － 上糸テンションを少し緩めてみましょう。

フリーモーションキルティング



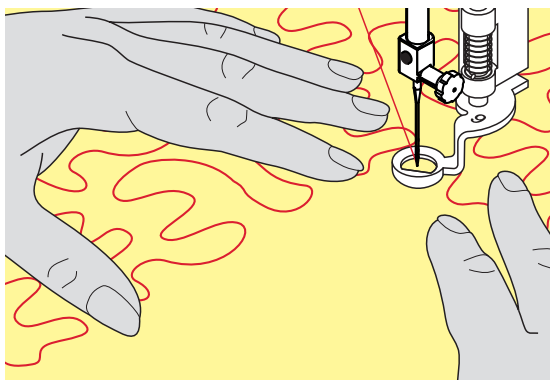
ダーニング押えNo. 9 */**

直線縫い No. 1

フリーモーションキルティング
あらゆるタイプのフリーモーションソーイングに。

準備

- トップ、キルト芯、土台布の三層をまち針でとめるか、しつけを掛けます。
- ソーイングテーブルをセットします。
- フリーハンドシステムを使いましょう。
- 送り歯を下げます



作品の持ち方

- 作品を刺しゅう枠にセットするように両手でしっかり張るようにして持ちます。



指先に滑り止めのゴム加工されたキルター手袋(オプション)が役に立ちます。

デザインをキルティングする

- 中心から外に向かってキルトを掛けてゆきます。
- 作品をスムーズに丸く動かしながら、デザインを描いていきます。

スティップリング・キルティング

- ー キルトステッチでスペースを埋め尽くします。
- ー ステッチはスムーズな曲線を描くようにし、交差しないようにします。



フリーモーションキルティングとダーニング

両方のテクニックはフリーモーションに基づいています。

針目が揃わない

- ー 糸が表側にひっばっているようなら、布を動かすスピードを遅くしてみます。
- ー 裏側で糸が輪を作るようなら、布を動かす速度を早めてみてください。

透明糸が切れる場合

縫うスピードを遅くして、上糸調子を緩めます。

糸が切れる

布を安定した動きで動かしてください。

BSR *を使ってキルティング



BSRの機能

BSR押えは、押えの下にあるセンサーで布の動きを感知して、ミシンのスピードを自在に変化させ縫い目の長さを一定に保ちます。つまり、布の動かし方が速ければ、それに合わせてミシンのスピードも早くなります。

布の動かし方が速過ぎる場合に、ブザー機能がオンになっていれば、警告のピー音が鳴ります。(68ページ参照)。

ご注意!

BSR押えが赤く点灯している時は、糸通しや針交換等の作業は決して行わないで下さい。ミシンはBSRモードになっており、うっかり布を動かしたりすると、勝手に針が動きますので、大変危険です。布が動かない状態にあると、BSRモードは約7秒後にオフになり、赤いランプも消えます。

詳しくは、「安全にお使いいただくために」をご参照下さい。

BSR機能がオンになると、ミシンは直ちに減速されたスピードで連続縫いをするか(モード1、標準設定)、または布の動いている間だけ縫います(モード2)。

BSR機能を直線縫い No. 1で使う

BSRで直線縫いを選ぶと、直線でフリーモーションキルティングを可能にします。縫い目は最大4mmまでの長さで設定できます。

縫い目長さは、一定の速度までは、布の動きに関係なく設定した長さに保たれます。

BSR機能をジグザグ縫い No. 2で使う

ジグザグ縫いはスレッドペインティング等到大変便利です。ジグザグ縫いのBSRでは、送り長さは関係無く、BSR機能は布の動きに合わせて布にペインティングするように縫っていきます。

BSRには2種類の動作モードがあります。

- BSR 1モード が標準設定です。
- フットコントローラーを踏み込むと、または「スタート/ストップ」ボタンを押すとともに、ミシンはゆっくりしたスピードで縫い始めます。
- 押えの下で布を動かすと、動かすスピードにつれてミシンのスピードも速くなります。
- 針は連続して動いているので、他のボタンを押すことなく、何処でも留め縫いをすることが可能です。
- 「BSR」ボタン(29ページ参照)を押すと、BSR 2モード に切り替わります。
- BSR2モードでのミシンは、フットコントローラーを踏み込むか、または「スタート/ストップ」ボタンを押すと、BSRがオンになりますが、布を動かさない限り、ミシンは縫い始めません。
- 布を動かすスピードによって、ミシンのスピードが決まります。
- 留め縫いをするには、「留め縫い機能」ボタンを押さなければ出来ません。
- 「BSR」ボタンを押すと、モード1に切り替えることが出来ます。



(最初の一針を)均等な縫い目で縫い始めるためには、フットコントローラーを踏み込むと同時に布を動かし始めなければなりません。このアイデアは、ポイント部分を縫ったり、丸い形を直線縫いする場合も同様です。

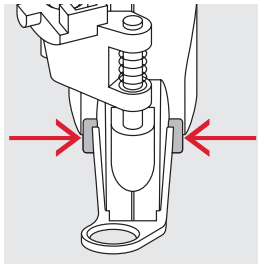
BSR機能を一旦オフにした後で、更に続けてBSRをオンにした時、オフにする前のBSRの設定がそのまま起動します。これはミシンの電源をオフにした後に、BSRをオンにした時にも同じです。

ある一定の速度を超えると(ピー音が鳴り)、縫い目は設定した長さに保てなくなります。

BSR押えの下側のレンズに指紋やが糊が付いたりして汚れていないのを確かめてください。BSRのレンズは定期的にレンズクロス等できれいに拭きましよう。

準備

- 送り歯を下げます。
- 押え圧は、素材のタイプや厚みにより調節します。
- ソーイングテーブルをセットしてください。
- フリーハンドシステムを取り付けます。

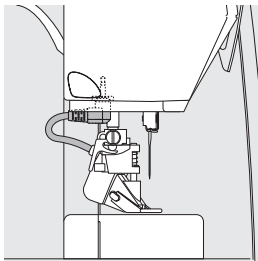


BSR押えの底部分を交換します

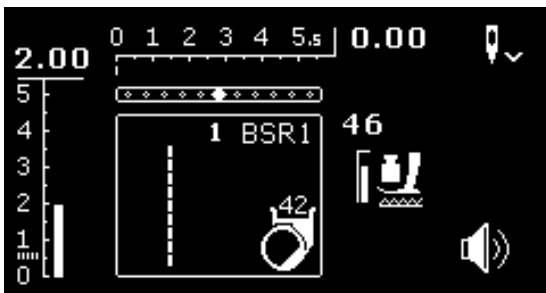
- 押えの両側に突起しているボタンを押して、
- 押えの底を抜き取ります。

押え底を取り付けます。

- 目的にあった押え底を滑り込ませながらカチッと収まるまで押し込みます。



- BSR 押えをミシンに取り付けます。
- 押えのプラグをミシンのコネクタに接続します。



- ▶ BSR-画面が自動的に表示されます。
- ▶ 直線縫いが起動します。
- ▶ BSR 1 モードが立ち上がります。
- «ステッチ選択»ボタンを押して、直線、またはジグザグを選びます。

- 送り長さをセットして下さい。
- 標準の送り長さは2 mmです。
- 小さな場所やステッピングを縫う時の送り長さは1-1.5 mm をお勧めします。

BSRモードでの各種機能

針下位置停止(標準設定)

- ▶ BSR画面上で、矢印が下を向いて表示されます。
- ▶ フットコントローラーを放すか、「スタート/ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針が布を刺している状態で停止します。

針上位置停止

- 「針停止」ボタンを押します。
- ▶ 矢印が上を向きます。
- ▶ フットコントローラーを放すか、「スタート/ストップ」ボタンを押すと、ミシンは針が上に上がった状態で停止します。

針を上げる、または下げる

- 「針停止」ボタンを押します。
- ▶ 針を上下することができます。

「スタート/ストップ」ボタンを使った留め縫い機能(モード1のみ)

- 押えの下に布地を置きます。
- 押えを下げます。
- 上糸を持って「針停止」ボタンを二回押します。
- ▶ 下糸が引き上げられました。
- 上下の糸を指で持ったままで、
- 「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- ▶ BSRモードが起動しました。
- 5-6針留め縫いをします。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- ▶ BSRモードが停止しました。
- 糸を切ります。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- ▶ BSRモードが起動しました。
- 続けて縫ってください。

留め縫い機能(モード2のみ)

- 「留め縫い機能」ボタンを押します。
 - フットコントローラーを踏み込むか、「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- 布地を動かすと短い留め縫いを数針縫った後、ミシンは送り長さを設定した状態に戻し、留め縫い機能をオフにします。

BSR警告音(ピー音)をオン/オフにするには

- 「設定」プログラムを選びます
- 「BSR警告音」アイコンを「ナビ」ボタンを使って選びます。
- 「OK」ボタンを押して確定します。
- 左のアイコンを選びます。
- 「OK」ボタンを押して確定します。
- ▶ 警告音がオンに鳴りました。
- 右のアイコンを選びます。
- 「OK」ボタンを押して確定します。
- ▶ 警告音がオフになりました。
- 「戻る」ボタンを押します。
- ▶ メインメニューが表示されます。
- 「BSR」ボタンを押します。
- ▶ BSR画面が表示されます。(モード1 または 2)
- BSR警告音がオンになっていると、スピードが最高に達するとピー音が聞こえます。
- BSRモードがオフにされると、警告音はそのときにセットされたままです。

BSR機能をオンにします

オプション 1:

BSRをフットコントローラーで使う方法

- フットコントローラーを接続します。
- 押えを下げます。
- フットコントローラーを踏みます。
 - ▶ BSR モードがスタートします。
 - ▶ 押え金に赤いライトが点灯します。
- 縫っている間は、ずっとフットコントローラーを踏み込んでおきます。
 - ミシンのスピードは、布の動きに合わせて均等に調整されます。
- フットコントローラーを放します。
 - ▶ BSR モードが停止します。

オプション 2:

BSRを「スタート/ストップ」ボタンで使う方法

- 押えを下げます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押すと、
 - ▶ BSR モードがオンになります。
 - ▶ 押え金に赤いライトが点灯します。
- ミシンのスピードは、布の動きに合わせて変化します。
- 「スタート/ストップ」ボタンをもう一度押します。
 - ▶ BSR モードが停止します。

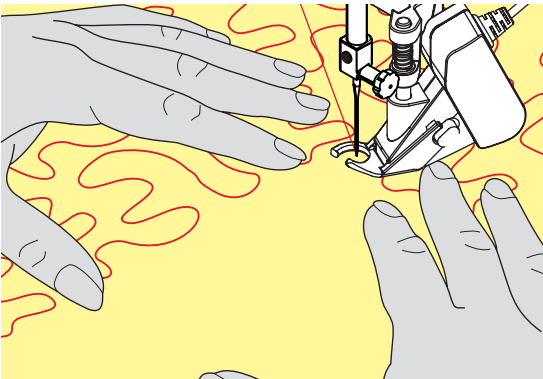
「スタート/ストップ」ボタンを押してBSR機能を停止させる

モード 1

布が約7 秒間動かない状態にあると、BSRモードは自動的にオフになり、押えの赤いランプも消えます。

モード 2

モード2では布地の動きが止まってBSR機能が停止している時、針の位置によっては、一針追加のステッチが縫われる場合があります。このモード2ではミシンは、画面上の針停止位置設定に関係なく、常に針を上で停止させます。



作品を保持します

- 両方の手であたかも刺しゅう枠を使っているが如くに布地を保持します。
 - 急激な手の動きは極端に長いステッチや短いステッチを生み出します。
 - 安定した布の動きが目の揃ったステッチを生み出します。
 - ソーイング中にピボット縫い(針を刺したままで布地を回転させる)をしないように。



指先に滑り止めのゴム加工をした手袋は作品を動かすのに大変便利です。



適用例:

- BSRをジグザグステッチNo. 2で縫う
- ジグザグステッチはスレッドペインティングのような効果を生み出します。
- 広いスペースをすばやく埋めていきますので、絵画のような作品を作り出せます。

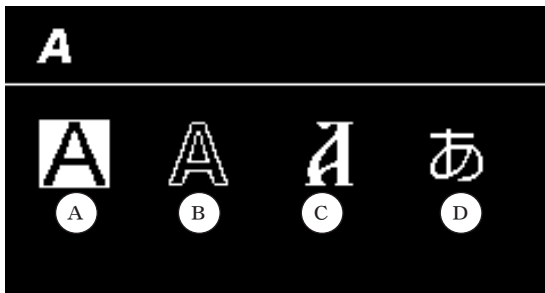
BSR 機能を停止させる

- BSRのプラグをコネクターから引き抜きます。
- BSR押えをミシンから取り外します。

アルファベット



- «ホーム»ボタンを押す。



- «ナビ»ボタンでメイン画面上の «アルファベット»アイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ アルファベット画面は次の4種類の書体を表示します。
- A ブロック体アルファベット
- B ダブルブロック体アルファベット
- C 筆記体アルファベット (イタリック体) *
- D ギリシャ文字書体



- «ナビ»ボタンを使って書体を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ アルファベットが表示されます。

コンビモード／メモリー

実用縫い／飾り縫い／アルファベットを組み合わせる

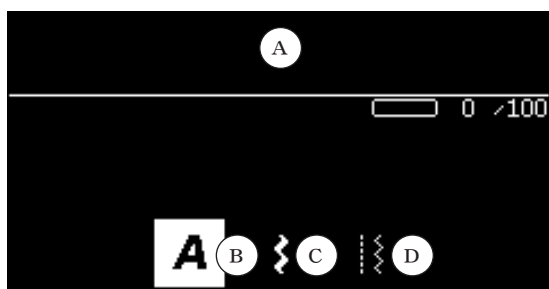
コンビモードのメモリーには100個のステッチや文字や数字が記憶できます。メモリーは恒久メモリーです。記憶した内容はご自身で消さない限り記憶されています。停電や突然の電源切れの状況下でもメモリーの内容は消えません。各ステッチなどに施した送り長さや振幅の変更、また針基線の変更なども一緒に記憶されます。メモリーの中でステッチや文字、数字などは個別に取り消し、追加が可能です。



- «ホーム»ボタンを押します。



- «ナビ»ボタンを使って«コンビモード»アイコンを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。



- A 編集域
- B アルファベット
- C 飾り縫い
- D 実用縫い

- カテゴリーを選んでステッチを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «ダイレクト選択»ボタンを使ってもステッチを選べます。

ステッチカテゴリー／アルファベットメニューでの«ナビ»ボタンの使い方

- «ナビ»ボタンの一つを押し続けます。
- ▶ ステッチカテゴリーやアルファベットメニューの中でスクロール出来ます。
- 行の最後で«右»ボタンを押します。
- ▶ 最初のステッチ模様の次の行が表示されます。
- 行の最初で«左»ボタンを押します。
- ▶ 先の行の最後のステッチが選ばれます。
- アルファベットまたはステッチカテゴリーの終わりで«右»ボタンを押します。
- ▶ アルファベットまたはステッチカテゴリーの最初のパターンが選ばれます。
- アルファベットまたはステッチカテゴリーの最初で«左»ボタンを押します。
- ▶ アルファベットまたはステッチカテゴリーの最後のパターンが選ばれます。
- ▶ 最後の列のステッチパターンが選ばれます。
- «下»ボタンを押します。
- ▶ 最初の列の同じ位置で文字またはステッチパターンが選ばれます。
- ▶ 最初の列の文字またはステッチパターンが選ばれました。
- «上»ボタンを押します。
- ▶ カーソルが編集域にジャンプします。



- ▶ 入力したステッチや文字が 編集域1に表示されます。
- ▶ カーソルがステッチパターンや文字が追加される位置を示しています。
- ▶ カーソルの右側に追加でき、カーソルの左側を削除できます。
- ▶ 選ばれたアクティブなステッチが 2 に表示されます。
- ▶ 全ての組み合わせステッチなどを画面に表示できない場合は、組み合わせデータの右端と左端に矢印で表示されます。
- «ナビ»ボタンの «右/左» を使って組み合わせデータをスクロールします。
- ▶ 使っているメモリー番号3が表示されています。
- 選んだカテゴリーから編集域にジャンプし、«ナビ»ボタンの«上/下» で戻ります。

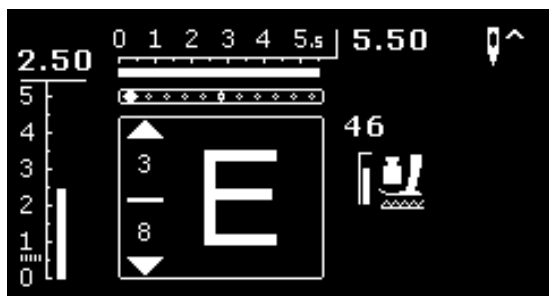
これらのステッチと機能はコンビモードでは使えません。

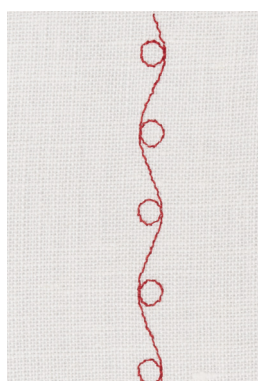
- 留め縫い No. 5
- つくろい縫い No. 22
- しつけ縫い No. 30
- ボタンホール
- ボタン付けステッチ No. 60
- アイレット No. 61, No. 62

組み合わせステッチを縫う

ステッチの組み合わせを作る。

- «戻る»ボタンを二回押します。
- ▶ コンビモードが表示されます。
- «針»シンボルを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ 画面にコンビモードが表示されます。
- 組合わせたステッチを縫う。
- «ナビ»ボタンを使って組合わせたステッチをスクロールしてみることが出来ます。
- ▶ 表示されたステッチを編集することが出来ます。(例:模様反転等)





例 A

組合わせたステッチを縫い続ける。

- «コンビモード»を選びます。(71 ページ参照)
- 飾り縫いステッチを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- カテゴリー700のステッチ No. 711 を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «戻る»ボタンを押します。
- カテゴリー400のステッチ No. 407 を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «戻る»ボタンを二回押します。
- ソーイングモードを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- 組合わせたステッチを縫う

例 B

ステッチと«模様反転機能»を組合わせて連続縫いをする。

- «コンビモード»を選びます。71 ページ参照。
- 飾り縫いステッチを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- カテゴリー700のステッチNo. 730を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- もう一度ステッチ No. 730 を選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «戻る»ボタンを二回押します。
- ソーイングモードを選びます。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- «ナビ»ボタンの«下»を使って二番目に選んだステッチに合わせます。
- «模様反転機能»ボタンをクリックします。
- «模様頭出し機能»ボタンをクリックします。
- 組合わせたステッチを縫います。



飾り縫いステッチを刺しゅう糸を使って縫います

- ステッチが鮮やかに縫えます。
- 下糸をボビンケースの角に通すとよい結果が得られます。

布地を二重にして縫うようにしましょう

布地が縮むのを防ぎます。

一枚の布地に縫うとき

- 下敷きに安定紙やティッシュペーパーを敷いて縫いましょう。
- 縫い終わったら下敷きにした素材をきれいに取り除きましょう。

例 C

文字や番号を組み合わせる。

- «コンビモード»アイコンをクリックします
- アルファベット書体を選びテキストを入力します。
- «戻る»ボタンを二回押します。
- ソーイングモードを選びます。
- «留め縫い機能»ボタンを押します。
- ▶ 組合わせたステッチや文字を縫い始める前にミシンは留め縫いをします。
- 組合わせたステッチや文字を縫う。
- ソーイング中に«留め縫い機能»ボタンを押します。
- ▶ 組合わせたステッチや文字を縫い終わるとミシンは留め縫いをして停止します。
- 不要な糸を切り取ります。

組合わせたステッチ/文字を訂正するには



組合わせたステッチ/文字を完全に消去するには

- «ホーム»ボタンを押します。
- «ナビ»ボタンを使って «コンビモード»アイコンをクリックします。
- «OK»ボタンを押して確定します。
- ▶ 組合わせ(コンビ)モードが表示されます。
- «削除»アイコンを選びます。
- «OK»ボタンをタッチして確認します。
- ▶ 全ての組合わせが消去されます。

ステッチや文字を一つずつ消去するには

- «ナビ»ボタンの«上»を押してカーソルを編集域に移動します。
- カーソルを«ナビ»ボタンの«右/左»を使って消去したいステッチや文字の右側に移動します。
- «clr»ボタンを押します。
- カーソルの左側のステッチ、または文字が消去されます。

ステッチパターンや文字を追加するには

- «ナビ»ボタンの«上»ボタンを押して、カーソルを編集域に移動します。
 - «ナビ»ボタンの«右/左»ボタンを使ってカーソルを好みの位置に移動します。
- 組合わせたステッチの先頭に別のステッチや文字を追加するには、
- «ナビ»ボタンを使ってカーソルを最初のステッチ、または文字の左側に移動します。
 - «ナビ»ボタンの«下»を押します。
 - 縫いたいステッチまたは文字をそれぞれの模様選択画面で選びます。
 - «OK»-ボタンを押して確定します。
 - ▶ ステッチパターンや文字は編集域のカーソルの右側に挿入されます。

組合わせ、メモリーモードを閉じる

- «ホーム»ボタンをタッチします。
- ▶ 主画面が表示されます。
- ▶ 組合わせが保存されました。

クリーニング

ご注意!

掃除や注油をするときは、安全のためにコードを電源ソケットから抜いてください!

絶対にシンナー等の溶剤の入った洗剤等は使わない事!



液晶画面とミシンの掃除の仕方

柔らかい、湿り気のある布で拭き取ります。

送り歯周辺

ご使用後は必ず釜周辺と針板の下側をブラシなどで掃除するようにしましょう。

- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 押え金と針を取り外します。
- 釜カバーを開きます。
- 針板の右側奥の角の丸い印の部分指で強く押して針板を浮かび上がらせます。
- 浮かび上がった針板を取り外してください。
- ブラシで掃除します。
- 針板を戻します。



大釜の掃除

- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 取り出します。
- 中釜押えロックを左側に押します。
- 黒い樹脂の中釜押えを手前に倒します。
- 中釜を取り出します。



- 大釜レース(溝)の回りをブラシや布で掃除します。その際、金属の尖ったものを使わないこと。
- 中釜を戻します。必要なら、釜の中の半月状の"トンビ"が左側に位置するようにはずみ車を回してください。
- 中釜押えを閉じて、中釜押えロックでしっかり閉じられていることを確認します。
- はずみ車を回して正しくセットされたかどうか確認します。
- ポビンケースを装着してください。



注油について

- 電源スイッチをオフ«0»にします。
- コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 一、二滴のオイルを大釜の周りに注してください。
- 電源スイッチをオン«I»にしてください。
- 糸を掛けずにミシンを少し回してください。
- ▶ 布を汚れるのを防ぎます。

トラブルシューティング

困った時は以下の各ポイントをご確認ください。殆どの場合、解決できます。

確認してください：

- 上糸、下糸が正しく掛けられていますか。
- 針が正しく装着されているかどうか。
- 針は、針と糸の一覧表(24ページ)を参照して正しいものをご使用下さい。
- 針先が痛んでいませんか。
- ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。
- 釜周りの掃除も忘れずに。
- ダイアルテンション付近やボビンケースのばねの下の糸くずを取り除いて下さい。

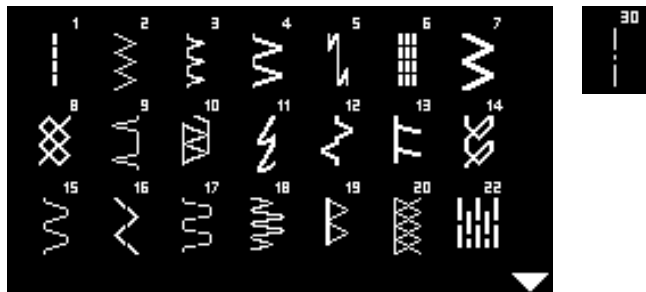
問題	原因	修理
針目が揃わない。	－ 上糸テンションが強すぎるか弱すぎます。 － 針先が傷ついているか曲がっています。 － 針の品質に問題があります。 － 質の悪い糸を使っている。 － 針と糸の選択が適当ではありません。 － 糸の選択に問題があります。	■ 上糸テンションを調節してください。 ■ 常に新しいベルニナ純正の針をお使いください。 ■ 常に新しいベルニナ純正の針をお使いください。 ■ 品質の良い糸をお使いください。(メトラー、ゲータマン、またはIsacord等) ■ 糸の番手に適切な針の番手を選びます。 ■ 上糸と下糸が正常かどうか確認します。
針目が飛ぶ。	－ 針の種類が間違っていますか。 － 針先が傷ついているか曲がっている。 － 針の品質に問題があります。 － 針の取り付け方法に問題があります。 － 針が布地に適していません。	■ 正しい針の番手は130/705Hです。 ■ 常に新しいベルニナ純正の針をお使いください。 ■ 常に新しいベルニナ純正の針をお使いください。 ■ 針を最上部まで差し込みます。 ■ 布地に合った針を選びます。
ステッチの目が揃わない。	－ 上糸テンションダイアルに糸くずが挟まっていますか。 － 糸の選択が間違っているかもしれません。 － ボビンケースのテンションばねの下に糸くずなどが残っていませんか。	■ 上糸ダイアルテンションを掃除するには、薄い布切れを二つ折りにして折り山をテンションディスクの間に滑り込ませて、前後にゆっくり動かしてテンションディスクの左右の溝を両側とも掃除します。 ■ 上糸と下糸が正常かどうか確認します。 ■ スプリングに引っ掛かっている糸を注意して取り除きます。
糸が天秤の周囲に引っかかった。	－ 上糸がよく切れる。 	上糸が切れて、ミシンの中に隠れて天秤等に引っ掛かってしまったときは以下の手順で取り除きます： ■ 電源スイッチをオフ«0» にして下さい。 ■ ミシン左側の面板の止めネジAを付属品のL型レンチで取り外します。 ■ 面板を左方向にねじって上に持ち上げ手取り外します。 ■ 絡まった糸を取り除いてください。 ■ カバーを戻してネジを締めてください。
上糸が切れる。	－ 上糸テンションが強すぎます。 － 糸の選択が間違っているかもしれません。 － 古くなった糸や粗悪な糸を使っていませんか。 － 針板か釜の剣先のいずれかに傷が付いているかもしれません。	■ 上糸テンションを弱くしてください。 ■ 上糸を確認してください。 ■ 品質の良い糸をお使いください。(メトラー、ゲータマン、またはIsacord等) ■ お近くのベルニナ正規販売代理店にミシンをお持込ください。

問題	原因	修理
下糸が切れる	- 下糸のテンションが強すぎます。 - 針板の針穴周辺に傷が付いている。 - 針先が傷んでいます。	- 上糸テンションを強くしてください。 - お近くのベルニナ正規販売代理店にミシンをお持込下さい。 - 新しい針をお使い下さい。
針が折れる	- 針の取り付け方が間違っています。 - 布を引っ張って縫っていませんか。 - 厚地のソーイングで布地を押し込んで縫っていませんか。 - 品質の悪い糸では縫りが均一でなかったり、こぶがあったりします。	- 針止めネジをしっかり締め付けます。 - ソーイング中は布地を引っ張らないように。 - 厚地には正しい押え金を使って縫いましょう(例えばジーンズ押え No.8)厚い縫い代の上を縫うときは高さ調節板を使います。 - 品質の良い糸をお使いください。(メトラー、ゲータマン、Isacord等)
ミシン	ミシンが全く動かない、またはゆっくりしか動かない。	- プラグが十分差し込まれていない。 - 電源スイッチをオフ<<0>>にする。 - ミシンが気温の低い部屋に保管されているとき。 - お近くのベルニナ正規販売代理店にミシンをお持込下さい。
メッセージ «Assert in File»	コンピューターシステム内部のエラー	ミシンの電源を切り、15秒後にオンにしてリセットします。

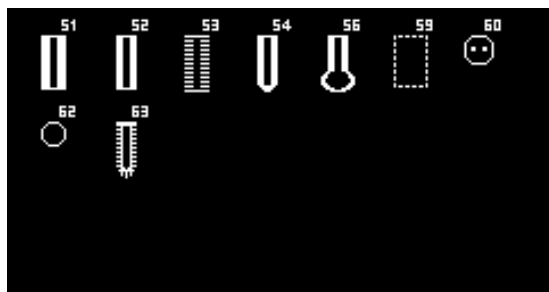
ステッチパターンのまとめ

BERNINA 530

実用縫い

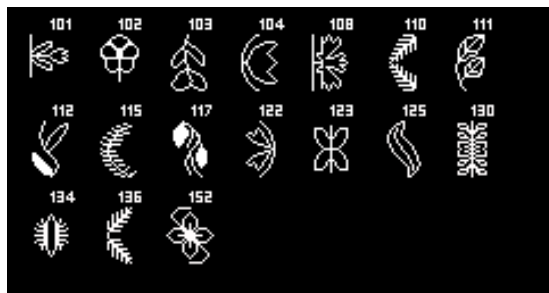


ボタンホール



飾り縫い

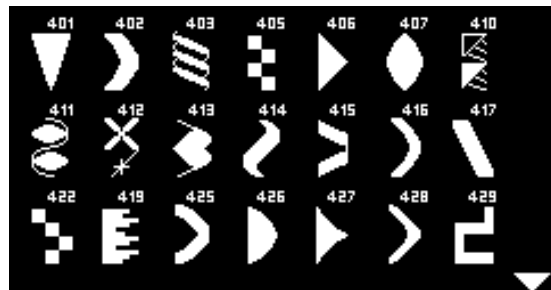
フローラル(花)ステッチ



クロスステッチ



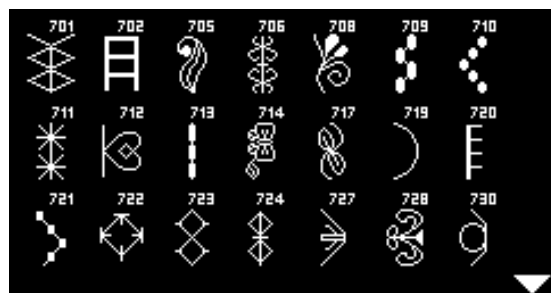
サテンステッチパターン



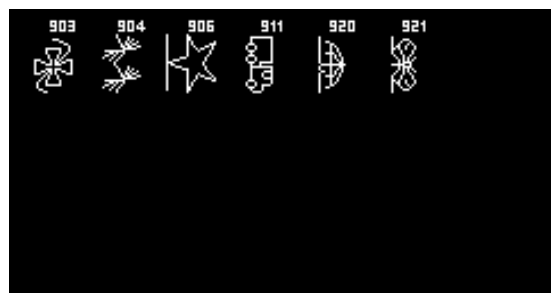
飾り縫いステッチ



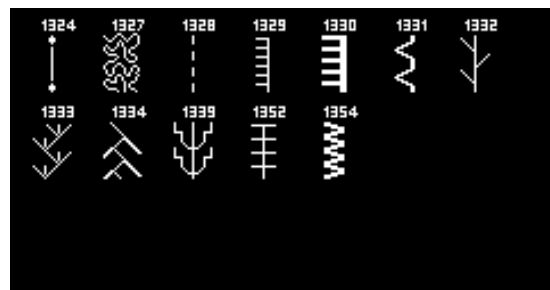
ヘアローム(伝統的)ステッチ



斬新なステッチ



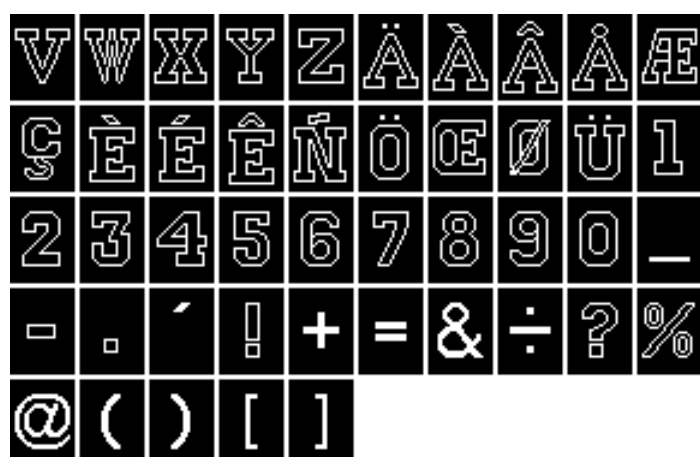
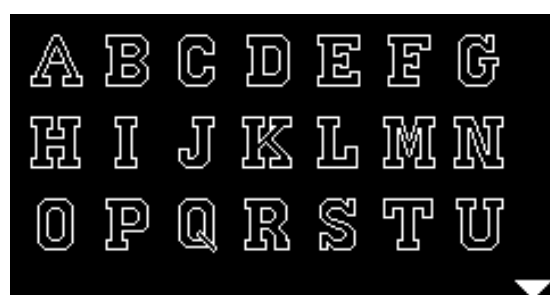
キルトステッチ



アルファベット ブロック体アルファベット



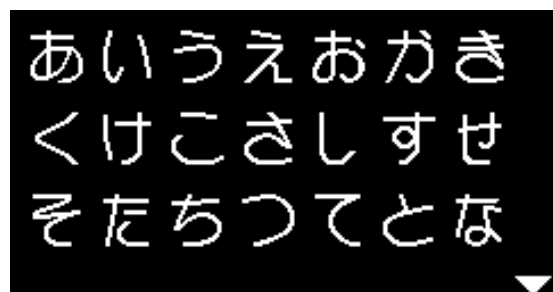
ダブルブロック体アルファベット



ギリシャ文字

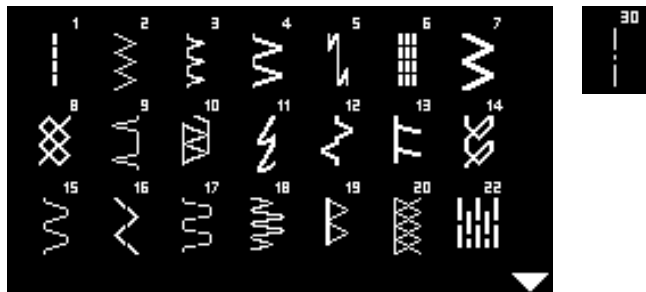


ひらがな

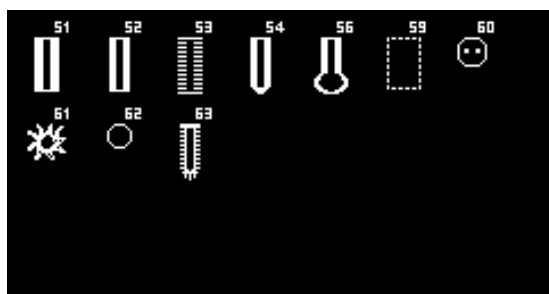


BERNINA 550 QE

実用縫い

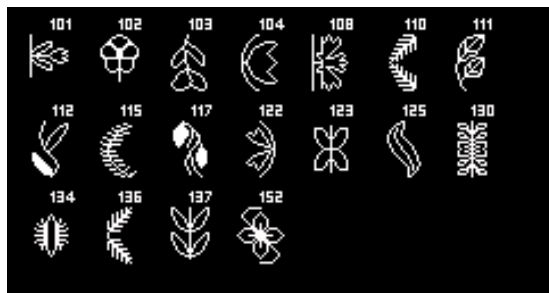


ボタンホール

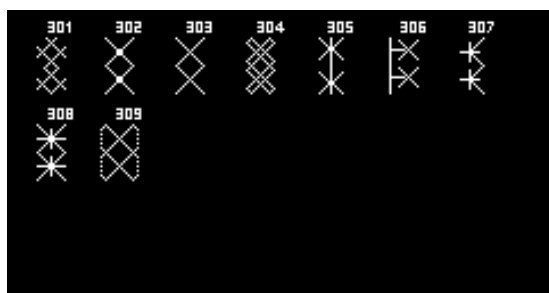


飾り縫い

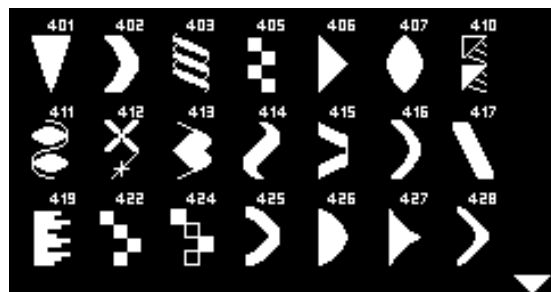
フローラル(花)ステッチ



クロスステッチ



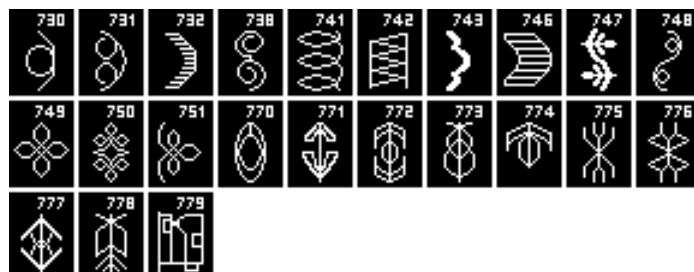
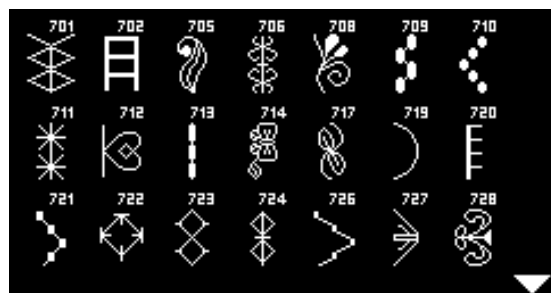
サテンステッチパターン



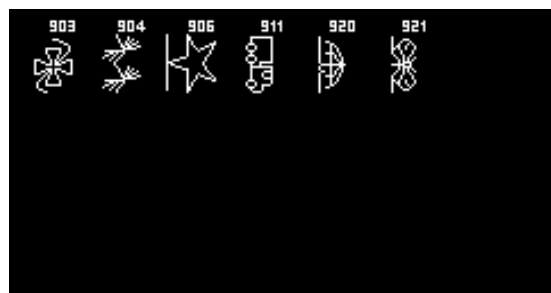
飾り縫いステッチ



ヘアローム(伝統的)ステッチ



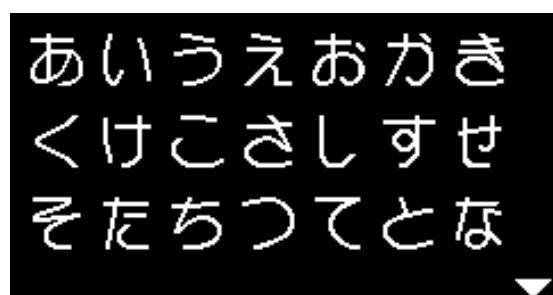
斬新なステッチ



ギリシャ文字



ひらがな



索引

ア

アイレット	51, 61
明るさとコントラスト	32
アクセサリ	7
アクセサリボックス	9
アルファベット	70, 80-81, 84-85
安全に関するご注意	2
安定紙	53

イ

糸	23, 24
糸こまカバー	7
糸こまクッション	7
糸こま立て	
■ 垂直	11, 13
■ 水平	11, 14, 16, 17
糸掛け	
■ 下糸	15
■ 上糸	16
■ 針	18
■ 二本針-/三本針	17
■ 下糸	15
糸切り	18
糸調子	20

オ

OKボタン	29
オーバーロックステッチ	37
オープンシーム	40
送り歯	22
送り長さ	27
押えシャンク/底	8
押え圧	21

押え金	8
■ BSR	8
■ 圧力	21
■ 概観	8
■ 交換する	19
■ 取り付け/取り外し	19
■ 画面	30
■ 上下	11
■ 底	8
■ 標準アクセサリ	8

押え金/底	18, 19
-------	--------

押え上げ	11
------	----

押え底	8, 18
-----	-------

カ

返し縫い	11, 28
飾り縫い	62, 78-79, 82-83
画面	30
釜カバー	11
環境保護	3

キ

機能ボタン	26-29
ギャザーステッチ	37
キャリングハンドル	11
キルティング	
■ BSRを使って	66-69
■ キルトステッチ/手縫いステッチ	64
■ ステップリングキルティング	65
■ フリーハンドキルティング	65

キルトステッチ	63, 80, 84
---------	------------

ク

クリアボタン	11, 29
クリーニング	
■ 画面とミシン	75
■ 釜	75
■ 送り歯エリア	75
■ 注油	75
クリーニングマーク	30
クリエイティブコンサルタント	35

ケ

警告音 32, 33, 68

コ

コーナー部分を縫う 50

後進 28

後方糸案内 11, 16

コットン糸 23
困ったときには 76

コントラストと明るさ 32

コンビモード 31, 71-74

サ

サービスマーク 30

サテンステッチ 30, 44

サブメニュー 31

左右模様反転 29

三本針 17

シ

シームガイド 12

シームリッパー 7, 54

ジグザグ縫い 37, 44

下糸
■ 糸掛け 15
■ 糸巻き中にソーイング 14
■ 下糸巻き 14
■ ボビンケースを入れ替える 15
■ ボビンの挿入方法 15

下糸カッター 15

下糸巻き用糸ガイド 11, 14

しつけ縫い 37, 48

実用/飾り縫いステッチ 39

実用縫い 31, 37, 78, 82

ジャージーステッチ 37, 47

主画面/メインメニュー 31

主電源スイッチ 11

ス

スーパーストレッチ 37

垂直糸立て棒 11, 13

水平糸立て棒 11, 14, 16, 17

スタート/ストップボタン 28

ステイプリングキルティング 65

ステッチカテゴリー 27

ステッチメモリー 39

ステッチ番号 26, 38

ストレッチオーバーロック 37

ストレッチステッチ 37

スピードコントロール 28

セ

設定プログラム

■ BSG警告音 33
■ ソフトウェアバージョン 33
■ ミシンの注油 33
■ 概観画面 32
■ 標準設定 33
■ 明るさとコントラスト 32

セットアッププログラム 32-33

ソ

ソーイングスピード 12 28

ソーイングテーブル 12

ソーイングテクニック 35

ソフトウェアバージョン 33

タ

ダーニング 43-44

ダーニング用枠取り付け穴 11

ダイレクト選択ボタン 26, 38

高さの補正 50

高さ調節板 7, 50, 52

ダブルオーバーロック 37, 45

チ

チュートリアル	34
注油	33, 34, 75
直線縫い	37, 40

ツ

つくろい縫い	43, 44
つくろい縫い用棒接続用穴	11
繕い縫いプログラム	37, 44

テ

手縫い風ステッチ	63, 64
電源コード	11, 12
天秤	11
天秤カバー	11

ト

特殊アクセサリ	11
トップステッチ	46
留め縫いプログラム	37, 48
留め縫い機能	29
トラブルシューティング	76-77
トリプルジグザグ	37, 41
トリプル直線縫い	37, 40

ナ

ナビボタン	29
-------	----

ニ

ニットオーバーロック	37
二本針	17

ヌ

布ガイド	46
布地、針、糸	23

ネ

ネットステッチ	37
---------	----

ハ

弾み車	11
パソコン接続	11
バランス	29, 36

針

■ 交換する	16
■ 糸と針に関する重要事項	23
■ 糸掛け	18
■ 上下	29
■ 針-糸の組み合わせ	24
■ 挿入する/取り出す	16
■ 停止	29
■ 二本・三本針	25

針、糸、布地	23
--------	----

針システム	24
-------	----

針と糸の組合せ	24
---------	----

針基線	27
-----	----

針糸通し	18
------	----

針停止	29
-----	----

針板	19
----	----

バリオーバーロック	37
-----------	----

ヒ

一模様縫い／繰り返し縫い	28
--------------	----

標準アクセサリ	7, 8
---------	------

BSR	29, 66-69
-----	-----------

■ キルティング	69
■ ジグザグ縫い	66
■ モード	66
■ 押え金を取り付ける	67
■ 押え底の脱着	67
■ 画面	67
■ 各種機能	68
■ 起動する	69
■ 警告音	68
■ 準備	67
■ 直線縫い	66
■ 停止する	69

フ

ファスナー	42
-------	----

縁縫い	46
-----	----

フットコントローラー	11, 12
------------	--------

フラット縫い	49
--------	----

フリーハンドキルティング 65

FHS 13

フリーハンドシステム 11, 13

振り幅 27

へ

へム 46-47

ホ

ホーム 28

補強オーバーロック 37

補強縫い縫い 37

ボタンホール

- 糸調子 52
- 4段階 59
- 5段階 59
- かかり幅を調整する 52
- 芯入り 54
- 恒久メモリー 58
- ストレッチボタンホール 51
- はと目 51, 57
- バランス 55
- プログラムする 56-58
- ヘアロームボタンホール 51
- マニュアルボタンホール 59
- ラウンドボタンホール 51
- 穴を切り開く 54
- 恒久メモリー 58
- 高さ調節板 52
- 糸調子 52

自動ヘアロームボタンホール 58

- 自動ボタンホール 56-58
- 自動ボタンホールとラウンドエンドボタンホール 57
- 自動標準と伸縮ボタンホール 56

重要事項 51

- 伸縮地用ボタンホール 56
- 送り長さを調整する 52
- 直線縫いボタンホール 51
- 標準ボタンホール 51, 56
- 布ガイド付き自動ボタンホール押え No. 3A 8, 56

ボタン縫付けプログラム 51, 60

ボビンケース 15

ボビンの挿入方法 15

ポリエステル糸 23

マ

まつり縫い 37, 47

ミ

ミシンの概観 10, 11

メ

メインメニュー 31

メニュー選択 27, 38

アルファベットを組合わせる 71

- ステッチメモリー 39
- プログラミング 71-72
- 画面 72
- 開く 71
- 削除 74
- 実用縫いと飾り縫いを組合わせる 71
- 追加 74
- 訂正 74
- 閉じる 74

モ

目次 5

模様 78-85

模様選択 26, 27, 38

模様頭出し 29

模様反転機能 29

ユ

ユニバーサルステッチ 37

ヨ

用語解説 6

ラ

ライクラスステッチ 37

ラウンドエンドボタンホール 51, 57

ランニングステッチ 37

レ

レーヨン糸 23

連続返し縫い 28

メモ

メモ

This image shows a full page of blank, lined paper. It features approximately 20 evenly spaced horizontal grey lines across its entire width, providing a guide for handwriting or typing. The background is a clean, solid white color.

テキスト

Herbert Stolz/Susanne Ribi

グラフィック

www.sculpt.ch

写真撮影

Patrice Heilmann, CH-Winterthur

タイプセッティング、レイアウト

Susanne Ribi

版權

2011 ベルニナインターナショナル株式会社, シュテックボーン、スイス

In partnership with

AMANN
GROUP

Mettler®

